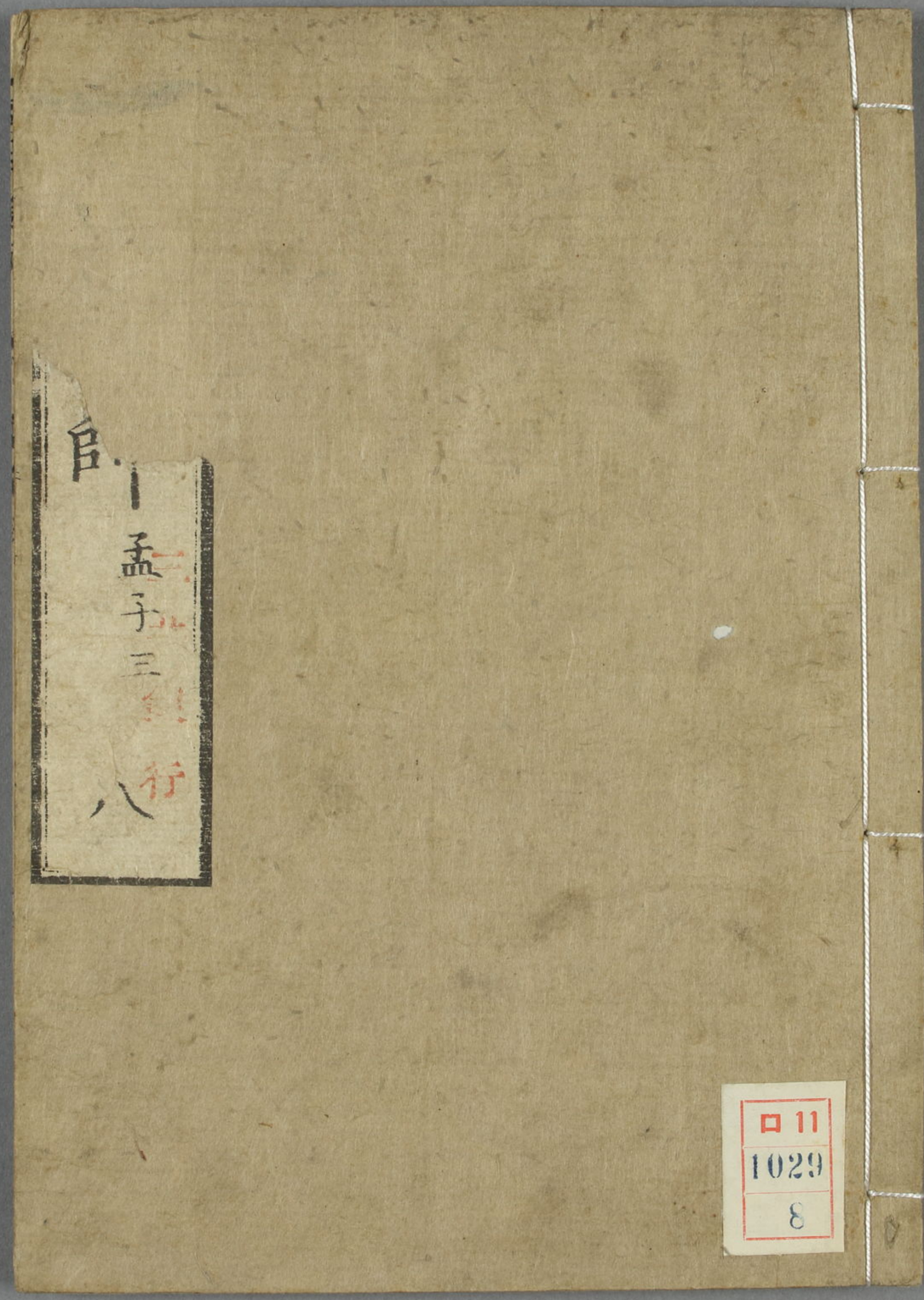
孟子三
八行
□ 11
1029
8

門 口11
號 1029
卷 8

離婁章句上

孟子の曰く離婁の明公輸子之巧規矩を以てせざれバ方員を成す事能ハず師曠之聰六律を以てせざれバ五音を正す事能ハず堯舜之道も仁政を以てせざれバ天下を平治する事能ハず

孟子

朱熹集註

離婁章句上

孟子曰離婁之明公輸子之巧不以規矩不能成方員師曠之聰不以六律不能正五音堯舜之道不以仁政不能平治天下

右の離婁ハ寸法を目その明うなる人なり。公輸子ハ巧工物を作る名あり。然ども規矩なよりてハ。員も方なるも成就なる事さなり。師曠ハ耳よく音声を聴る人なり。然ども五音と六の律あるとバ

そその意得となるとらふも仁義の政務を施しうれあるでハ天下を治るこのうべし

今有仁心仁聞而民不被其澤不可法於後世者不行先王之道也故曰徒善不足以爲政徒法不能以自行

詩云不愆不忘率由舊章遵先王之法而過者未之有也

詩の辞。愆も忘も如く。仁心の聞あるも。方民恩沢を被ふらざるは。先王の道を行ハざるが故なり。こゝを以て善心ハ政務の用ゐ足べからず。徒づからるの法ハ自ら行ハれ難し。

聖人既竭目力焉繼之以規矩準繩以爲方員平直不可勝用也既竭耳力焉繼之以六律正五音不可勝用也既竭心思焉繼之以不忍人之政而仁覆天下矣

聖人万事に法を立ひ。目の力を竭し。舊き章に率ひて遵ひ過失なからんと欲ハ。規矩と準繩を用ゐるが如くなるべし。聖人既に道を重ど由るを以てなり。若先王の道を聞ざるハ未だ有らざるなり

故曰爲高必因丘陵爲下必因川澤爲政不因以行不可以爲政

故ゆへに曰く高を爲ハ必ず丘陵に因り下を爲ハ必ず川澤に因て而して仁天下に覆ふ

因政ごと為て先王之道ふ因不ハ智と謂可けん乎

是を以て惟仁者宜く高位ふ在宜不仁ふして高位ふ在ハ是其惡を衆ふ播ことを

上ふ道の揆無下ふ法の守る無く朝道を信せ不工度を信せ不君子義を犯小人刑を犯ち國ふ存する所の者幸ハひなり

先王之道可謂智乎。其の故ふ高ことを用ふにハ必ず丘陵ふ因ること。下ふ川澤ふ因ること。猶ほ智ハ仁者ふして在ことく。不仁ハ仁者ふして在ことく。猶ほ智ハ先王竟舜の道ふ因ことを明智の人ということ。

位不仁而在高位是播其惡於衆也。

上無道揆也下無法守也朝不信道工不信度君子犯義小人犯刑國之所存者幸也。凡そ乱とふつのハ上ふ道の揆なく下ふ法の守なく朝廷の君子ハ義理を犯て道る小人ハ政刑ふ犯て身を脩ることを。工の官も御定の法度を信ぜざ。かゝることなり行て

故ふ城郭國家の存ハ幸ふよくの幸ふ

完ふ不兵甲多ふ不國之災ひ非ことを

田野辟不貨財聚ふ不國之害ふ非ことを

上ふ禮無下ふ學無ハ賊民興つて登ること無

故曰城郭不完兵甲不多非國之災也田野不辟貨財不聚非國之害也上無禮下無學賊民興丞無日矣。其の理を以て推とさい。城郭完ハそ兵甲の不多くして國の災ハひ弱くなるべ田地不辟貨財聚ゆうなくして害なるべきふあらず。唯く上の政道ふ礼法なく下の風俗ふ道を学ことなき時ハ盗賊あふるゝ日數あらまじ下

詩ふ曰く天之方ふ蹶く然く泄泄すること無

詩曰天之方蹶無然泄泄。其の詩の心ハ天數とりふ定あるて急ふ蹶ごとに方てハ悉ーとをさんーてハ叶ふよべうぜんふ必ず泄泄ふ泄泄ふ

君ふ事へて義無く

泄泄ハ猶沓沓の猶

泄泄猶沓沓也事君無義。泄泄とハ今世ふいふ機ふ蹶ごとふ詩經ふ出ることなり。沓沓ハ詩の辞ふ説うゝ。沓沓の意なりとぞ沓沓ハおもふうの心なり

進退禮無く言則ち先王之道を非る者ハ猶砉砉の猶ー

故ゆゑに曰く難を君小責之を恭と謂ふ善を陳邪を閉之を敬と謂吾君能ハ不之を賊と謂

○孟子の曰く規矩ハ方員之至ル也聖人ハ人倫之至ル也

進退無禮言則非先王之道者猶砉砉

今日君ハ事奉ふる身ゝて義を重とせんその進退礼法と失うふ或ハいふ〳〵への先王の道を非なりと〳〵ー

故曰責難於君謂之恭陳善閉邪謂之敬吾君不能謂之賊

恭敬ざるりのあり。かゝる者ハ日々ふらつくべくもとゝなり

故曰責難於君謂

恭敬ざるりのあり。かゝる者ハ日々ふらつくべくもとゝなり

故曰責難於君謂

之恭陳善閉邪謂之敬吾君不能謂之賊

其の故ゆゑに忠臣ハ君の難ふよも諫言を奉ふろうてその失念を責ふとなる。又ハ君の善志ざーあるれハ夫をふを陳て人へ示ー。りー又君の蹉邪なるこつをハ閉かくもかくのごとくなるをこそ恭敬とハ下ふろう。就中ゝ君ハあやまちをも改もること能ハざるとらを盗賊の臣と名づくるゆへんなり。君臣恭敬の道ハ天朝自然の常なり。他國とらくど中華ハ君子の教かくの如きなり

人鑑ゝて恥ざるべんや

○孟子曰規矩ハ方員之至也聖人ハ人倫之至ル也

規ハ圓を作る。矩ハ方を作る。方ハ四角なり。人ハ聖人なるゆへバ方と圓との至極なる根源ハ規矩の二つなり。人倫の至極と

之至也規ハ圓を作る。矩ハ方を作る。方ハ四角なり。人ハ聖人なるゆへバ方と圓との至極なる根源ハ規矩の二つなり。人倫の至極と

欲爲君盡君道二者皆法堯舜而已矣

天朝の人鑑ゝて恥ざるべんや

○孟子曰規矩ハ方員之至也聖人ハ人倫之至ル也

規ハ圓を作る。矩ハ方を作る。方ハ四角なり。人ハ聖人なるゆへバ方と圓との至極なる根源ハ規矩の二つなり。人倫の至極と同意なり

欲爲君盡君道二者皆法堯舜而已矣

不以舜之所以事堯事君不敬其君者也不以堯之所以治民賊其民者也

今日君と臣となる者ハ各〳〵其の道を尽すことなり。舜の君に事ふるの務と堯の臣と治むる所以の法則とをまなべさ

不甚則身危國削名之曰幽厲雖孝子
慈孫百世不能改也　君となりて暴虐の民となつふさぬれハ則ち身滅亡に及ぶなり。其ゆゑハ則ち身危く國削らるゝ者の行ひを戒むるの為なり。甚しくハ身危く國も滅亡に及ぶなり。其ゆゑハ則ち身滅亡に及ぶなり。甚しくハ身危く國削らるゝ者の行ひを戒むるの為な

○孟子の曰く人を愛
して親しまず其仁に反る
人を治めて治まず其智に反る
人を禮して答せず其敬に反る

行ひ得不者有ば皆反
りて諸を己に求む其
身正くして天下之
歸を

詩に云く永く言の配命
自ら多福を
求む

○孟子の曰く人恒の言
有皆曰く天下國家と
天下之本ハ國に在國
之本ハ家に在家之本ハ
身に在

○孟子の曰く政でを
為すに難からず不罪を
巨室に得不ば巨室之
慕ふ所一國之を慕ふ
國之慕所天下之を
慕故に沛然として
徳教四海に溢る

○孟子曰く人不親ば其仁に反る治ず人不
ば其智に反る禮ず人不答ば其敬に反る
人と交接ることハ此方ようの誠
を尽すべし一ぱり一ぱりの誠なるべし
ようハ誠なるべからざる時ハ人の仁の
ようハ人を治して治をうけざるハ吾が智のようハ
なり人の礼義を施して向方にその報礼の無ハ敬
恭の行届ぬるにつけて身れにも反るべし愛をも
○孟子曰く行有不得者皆反求
諸己其身正而天下歸之
詩云永言配命自求多福
何ごとをもなすにも身の正くして意を得ざることあれバ
後ろ天下ことごとく正行なひを慶ハ天命に配當と
詩の心ハ常ふ身を
いふものなり。言とハ常とふそなふるをハ自然ふ

身の福幸を求め
得とふつのそ

○孟子曰く人有恆言皆曰天下國家天
下之本在國國之本在家家之本在身
人く恒に大言を吐て天下國家の事を心易げにいふ
らくも。天下の本ハ國にして國家なり。國の本ハ家なり。家の本ハ
身なり。身を脩め事を訟べきこと其理ふあるべし
○孟子曰く爲政不難不得罪於巨室巨
室之所慕一國慕之一國之所慕天下
慕之故沛然徳教溢乎四海

國の政事をなすとハ難とせず。巨室とハ鄙匠の中にそそりふるる家又ハ世くの
なる室と、ハ鄙匠の中にそそりふるる家又ハ世くの者こゝろを取へうもしこなう。巨
ちん子細

家老をらんなう。主君～人身持正～うらぎる時ハ右のでくなうぞを家老大家の者君を戴くやくなるべし。

一國の人民も慕べく一國まくふ時ハ天下まこ帰ふへをなんぞの故ぞう徳沢沛然れうそ四海ぞう溢るのなう

○孟子曰。天下有道。小德役大德。小賢役大賢。天下無道。小役大。弱役強。斯二者天也。順天者存。逆天者亡。

天下おこなわれて國家道あるの世ニハ名ろく徳を懐ちの大ぞ智ある者ハ大ぞ用らるる。小徳なうりの八大徳ぞまこと道ならこと世うなうて八名ろくカぞとあるそゆへ小ぞる者八大なうりのぞ役ぞ弱ぞりのハ強ぞりのぞとうもの自然の勢ひぞうぞ。まこぞに分をもりの天道ぞ順へがふとぞさハ存ゆるなう。ぞ又逆ふぞるハ滅亡ぞ及ぶなう

齊景公曰。既不能令。又不受命。是絕物也。涕出而女於吳。

齊の景公の曰く既ぞ令ぞ能ハ不又命ぞ受不ハ是物と絶也涕ぞ出て而呉ぞ女あり

吳の國ぞう自ら曰く。呉ハりと蠻夷の國なう。ぞ人を人令もらるしあくハざるぞハ物の交接を絶をらるもなう。勢ほひんぞ人の今ぞを受ざれバ懸あゝぶとて慇女ぞを呉ぞうさゝん憚念ぞおがへて涙ぞむびのふゝなう

今也小國師大國而恥受命焉是猶弟子而恥受命於先師也

今の小國の君ハとりたうと大國ぞう師ぶいて。指圖ぞを受ることあう。孰ぞをひ驚さゝぞ恥べきことなう。ぞもこん恥ぞ是身の分限ぞをもゝめとらふりのなう

如恥之莫若師文王師文王大國五年。

如之ぞを恥バ文王ぞを師とまこふ若ハ莫文王ぞ師ぞ受ると恥あるべし

今小國大國ぞを師として命ぞを受るぞを恥是弟子ぞして命ぞを先師ぞ受るぞ恥あるべし

師ことばハ大國ハ五年小國ハ七年ゝぞうず政ごとを天下ゟ為ん

詩ゟ云く商之孫子其師衆ハ十萬ゟ不上帝既命ゟ侯周ゟ服ゟ侯周ゟ服ゟ天命常靡殷の士膚敏裸ゝて京ゟ將く孔子曰く仁ハ衆を爲可ゟ不夫國君仁を好へで天下ゟ敵ゟ無ゝ

今天下ゟ敵無を欲ゝてゝ一を以ゝ之不是ゟ熱を執て以て濯ハ不ゞ猶ゝ詩ゟ云く誰ゟ能熱を執ゝ迸ゟ以て濯ハ不ん

○孟子の曰く不仁者ハ與ゟ言可ゟ哉其危ふきゟ安ゝて其亡ぶる所以の者

小國七年必爲政於天下矣

如ごとく大國ハ五年ゝぞうず政ごとを天下ゟ為ん

詩云商之孫子其師不億上帝既命侯于周服侯服于周天命靡常殷士膚敏裸將于京孔子曰仁不可爲衆也夫國君好仁天下無敵

詩の詩の心ハ殷の子孫其臣下師ごとく大國ハ五年ゝぞうず政ごとを天下ゟ為ん

今天下之欲無敵於天下而不以仁是猶執熱而不以濯也詩云誰能執熱逝不以濯

酈曽の酒を地ゝ誠ゟ仁徳の君ゟ八衆くの人を頼むとなく誰そむくゝ

○孟子曰不仁者可與言哉安其危而利其災樂其所以亡者不仁而可與言則何亡國敗家之有

不仁なゟ人とハ與ゟ道理をゟの言ゟの

戕賊也不仁者之常安ら安ら何と
そうふりの八身の為たハ危き場所なう身の害を
綿なうとまるに同じ
迷ひいつこハ酒を樂ミ奢侈をきわめむさぼり是こう身の
亡ら所以をたの〳〵むひとらふりのなう不仁なう者と八興〳〵
行ひ眞〳〵言がうて身〳〵害のそうたりのなう八國亡び

孺子有歌て曰滄浪之水清兮可以濯我纓滄浪之水濁兮可以濯我足

孔子曰小子之を聽清斯ゐ纓を濯ひ濁らハ斯ゐ足を濯ふ自之を取也

家貶〳〵とらふやうの有さ〳〵をなう

清兮可以濯我纓

むう〳〵清ハ孺子のうたふ歌う滄浪の川の水
御門人ら作ハ孺子のうたを聞べし清と濁
こうそ同じ水の用らうこと異なうこの理まことに

濯我足

り〳〵濁てあ〳〵バ足を濯ふ〳〵そ

濯纓濯足矣自取之也

聖人この歌を聞〳〵あしき人ら作ハ孺子のうたを聞べし清と濁
ら八孺子のうたふ歌う滄浪の川の水
御門人ら作ハ孺子のうたを聞べし清と濁
こうそ同じ水の用らうこと異なうこの理まことに

夫人必自侮然後人侮之家必自毀而後人毀之國必自伐而後人伐之

右の理を以て推ふ〳〵人ら侮ふ事も
まつ毀ら〳〵ふ事も自己よう人を侮ふ毀ふ
ようあるゆへ〳〵そのいろ〳〵ふ報のそうそおうそう。國の滅亡ふ
ようとふも人伐ふ其の

失其民者失其心也得天下有道得其民斯得天下矣得其民有道得其心斯得民矣得其心有道所欲與之聚之所惡勿施爾也（繆紂ハ一人ノ悪王ナリトイヘドモ天下ヲ奪ヒ取ルヨリ人ヨリ天下ヲ得ルニハ道アリ吾身ヨリ諸ノ臣ト天下ノ万民トヲ得ルニハ其ノ道アリ其ノ道ハ万民ノ欲スル所ヲ聚メ与ヘテ之ヲ取ラシメ万民ノ悪ム所ハ施サズシテ勿ラシムルヨリ外ナシ）

民之歸仁也猶水之下也就下獸之走壙也（民ノ仁徳ニ帰スルハ水ノ下キ場所ヘナガルヽガ如ク自然ノ理ナリ）故爲淵歐魚者獺也爲叢歐爵者鸇也爲湯武歐民者桀與紂也（民ハ仁者ノ場所ヘナガルヽ事ヲ魚ハ淵ヘ住ミ雀ハ叢ヘ住ミ民ハ仁者ノ場所ヘ住ミ仁者ハ民ヲ集メ与ヘテ民ヲ出サヌヤウニスル事ヲ獺ハ魚ヲ取リ鸇ハ雀ヲ取リ桀紂ハ民ヲ出サヌヤウニスル事ヲ譬ヘテ云ヘリ）今天下之君有好仁者則諸侯皆爲之歐矣雖欲無王不可得已（今ノ世ヨリ仁心アツク好ミヲ付ケテ万民ヲ帰スル天下ノ王ヲスルコトヲ拒ガントスルモ不仁ノ者ヲ歐ヒ出シテ仁者ヲ集メ与ヘ

今之王を欲する者ハ猶七年之病ひ三年之艾を求むるが猶し苟ふ孟ふ不を爲ず身を終るまで得不苟ふ仁ふ志ざ不ハ身終るまで憂辱以て死亡ふ陷るを詩ふ云く其何ぞ能ク淑ら載ら胥及ふ溺ら此之謂也

○孟子の曰く自ら暴ふ者ハ與ふ言ふ自ら棄つる者ハ與ふ爲ふ有可ら不言ふ義ふ自暴と謂ふ自身仁ふ居義に由ら能ハ不之を自棄と謂也

仁ハ人之安宅也義ハ人之正路也

安宅を曠ちて弗ず居ふ舍て正路を由ら不哀しい哉

○孟子の曰く道ハ爾たふ在而て諸人ようぜひ王とたっとむ者ハ猶七年之病ひ三年之艾を求むるが猶し苟ふ爲ず不ハ終身憂辱以て陷るに於死亡に

詩ふ云く其何ぞ能ク淑ら載ら胥及ふ溺ら此之謂也

○孟子の曰く自ら暴ふ者ハ與ふ言ふ自ら棄つる者ハ與ふ爲ふ有可ら不言ふ義ふ自暴と謂ふ自身仁ふ居義に由ら能ハ不之を自棄と謂也

仁ハ人之安宅也義ハ人之正路也

安宅を曠ちて弗ず居ふ舍て正路を由ら不哀しい哉

○孟子の曰く道ハ爾たふ在而て諸

求二三年之艾一也苟爲不畜終身不得有

不志於仁一終身憂辱以陷於死亡

（今の諺に病ひ久しく藥ふて心ふ王ふ志ざ仁ふ施ふ行ふ善ふ人ふ之ふ道ふ必ず遂ふ其ふ身ふ之ふ死ふ亡ふ候ふ方ふ仁ふ心ふ之ふ語ふ八ハ今ふの爲ふ

詩云其何能淑載胥及溺

何ぞ能ク淑ら載ら胥及ふ溺ら此之謂也

○孟子曰自暴者不可與有言也自棄者不可與有爲也言非禮義謂之自暴也吾身不能居仁由義謂之自棄也

道ふの志ざ一なる人ふの病ひ二ツあり一ツハ仁義作法をそしり一生涯ぶつぶつ非議

仁ハ人之安宅也義ハ人之正路也

曠安宅而弗居舍正路而不由哀哉

仁ハ人ふの相ひ睦ふ徳義の事を言ふ場所なり因て安穏の家宅といふ義ハ人のあるべき場所なり因て正しき路といふ今世の人ハ安穏の宅を曠ちて正しき路を由ずあやまりて行ふ事を哀むべし

○孟子曰道在爾而求諸遠事在易而

を遠きに求むる事、易たよに在りて諸を難きに求むる人其親を親とし其長を長として天下平らかなる

○孟子の曰く下位に居て而して上に獲ざれば民得て治むる可からず上に獲ざるに道有り友に信ぜざれば上に獲ること弗し友に信ぜざるに道有り親に事て悦こばざれば友に信ぜらるること弗し親を悦こばせるに道有り身に誠あらざれば

求諸難人親其親長其長而天下平

○孟子曰居下位而不獲於上民不可得而治也獲於上有道不信於友弗獲於上矣信於友有道事親弗悦弗信於友矣悦親有道反身不誠不悦於親矣誠身有道不明乎善不誠其身矣

是故誠者天之道也誠之者人之道也

至誠にして動かざる者未だ之有らざるなり

是故誠者天之道也誠之者人之道也

至誠にして動かざる者未だ之有らざるなり

之有也不誠未有能動者也誠の至こうりの人物を感動するのまあるごとくなり

○孟子曰伯夷辟紂居北海之濱聞文王作興曰盍歸乎來吾聞西伯善養老者太公辟紂居東海之濱聞文王作興曰盍歸乎來吾聞西伯善養老者

殷の世の末紂王悪逆無道にして伯夷ハ世の中を辟て北海のかた濱に住り太公ハ東海よりそかくなる時ハ文王の仁徳及び聖人の世のおこるときくなる多ハ心ころ〳〵ふかゝらん歟何ぞ我ハ帰服をべきや一老者天下之大老なり天下の人の父たるべき二老ハ父

諸侯有行文王之政者七年之內必爲政於天下矣今若諸侯の內ニ文王の如く仁政を行ハゝ七年の內ニ天下の方民帰服して政道を天下へ行ハるゝ

○孟子曰求也爲季氏宰無能改於其德而賦粟倍他日孔子曰求非我徒也小子鳴鼓而攻之可也冉求ハ一般の士季氏ニ不徳の過失を改めしめて粟の賦斂を他日ハ倍ニせし事ハ聖人之を悪ミ給ふ故ニ我徒ニあらず小子ニ命じて攻鼓ニ其

是天下之父之歸也天下之父之歸を其子焉くんぞ往かん

諸侯文王之政を行ハゝ天下之父の歸を其子焉くんぞ往かん

○孟子の曰く求李氏が宰し爲て能其德を改むること無ハゝ賦粟他日ハ倍ニせし孔子曰く求我徒ニ非ざる小子鼓を鳴こゑを攻て可也

此ふ由て之を觀ば君仁政を行ふ時は不
ー〳〵之を富也ハ皆
孔子の小葉ら〳〵者
也況人や之が爲ふ強
戰ふ土地を爭ふて
以ー戰ひ人を殺こ
野ふ盈城を爭ふて
以ー戰ひ人を殺こ
城ふ盈此所謂土地
を率て人の肉を食
罪死ふ容ふ

故ふ善戰ふ者ハ
上刑ふ服ふ諸侯
を連ふ者之ふ
辟土地ふ

仕ざる者ハ之を次

○孟子の曰く人ふ
存ざる者ハ睥子ふ
浪ハ莫睥子其惡を
掩ふ能ハ不胷中
正ざれバ則ち睥子
瞭らかなう胷中
正ざれバ則ち睥子
子眊ー其言を聽
て其睥子を觀人
焉んぞ廋さ哉

○孟子の曰く恭者
人を侮ざら不儉

孟子集註 二十三

皆棄於孔子者也況於爲之強戰爭地

皆ハ上ふ仁政を行ふ時ふ由て觀ハ之ふ棄ハ捨ふ孔子ハ上ふ仁政を行ふ時ふ由て觀ハ之ふ棄ハ捨ふ征賦稅斂などを以ー戰ひ人を殺こ野ふ盈城を爭ふて以ー戰ひ人を殺こ城ふ盈此所謂土地を率て人の肉を食罪死ハ容ふ不仁の甚ー大ー

以戰殺人盈野爭城以戰殺人盈城此

所謂率土地而食人肉罪不容於死

故善戰者服上刑連諸侯者次之辟土地者

故ハ善戰ハ兵を用ひて戰爭をいふ者ハ上刑ハ極ふ重ー罪ふ服ふべー諸侯をそゝのかしひて徒黨ふ連ふ者ハ上刑ハ次ふ重ー罪ふ服ふべー土地ふ爭

奪人之君惟恐不順焉惡得爲恭儉豈
可以聲音笑貌爲哉

○淳于髡曰男女授受不親禮與孟子
曰嫂溺則援之以手乎曰嫂溺不援是豺狼也男女授受不親禮也嫂
溺援之以手者權也

淳于髡ハ齊の辯士と名をとりしものなり孟子へ
見へて難問ありや御答へ申すべしと云ふ意なり又問て
曰くり嫂婦溺ると時ハ手を取て援べしといふんの
御答それハ手をそてなりとも援べしりり援さる者狼
もうのにもりめりてあるを時の權道といふなり

曰天下溺るゝ之を援ふ道を以てす嫂溺
るゝ之を援ふに手を以てするが如し子
曰天下溺るゝ之を援ふ道を以てす嫂溺るゝ則ち之を援ふに手を以
てす淳于髡曰男女授受不親禮與孟子曰嫂溺則援之以手子曰嫂溺
不援是豺狼也男女授受不親禮也嫂溺援之以手者權也淳于髡ハ齊
の辯士と名をとりしものなり孟子へ見へて難問ありや御答へ申すべ
しと云ふ意なり又問て曰くり嫂婦溺ると時ハ手を取て援べしといふんの
御答それハ手をそてなりとも援べしりり援さる者狼もうのにもりめりて
あるを時の權道といふなり

曰今天下溺る夫子之不援何也

曰今天下溺るゝ夫子之不援何也曰天下溺援之以道嫂溺援之以手子欲手援天下乎

捨て天下を正をと
いふことあるべし

○公孫丑曰君子之不教子何也

公孫丑の問なり親ふ子ふ教を施さゞるハ何ふる道理ぞ

孟子曰勢不行也

勢ひ行ハれざる故也

教者必以正以正不行繼之以怒繼之以怨則反夷矣夫子教我以正夫子未出於正也則是父子相夷也父子相夷則惡矣

御巻父子の間ハ教訓の勢ひなり施すに細ハおのれと正しきことを用ゆるなり
怒ハ父子の心ふる処ふて夫子我に正きをおのれへと
施せどもその身も正を場て出ざるとき父子情を異てハ大ふ悪をとゝ

古者易

て之を教也父子之間善を責不善を責れば則ち離る離れば則ち不祥焉ふる大なるハ莫し

孟子の曰事へ孰れ大なるふ為親ふ事ふる大なるふ為守ふ身ふる大なるふ為其身を失ふて而して能其親ふ事ふる者吾之を聞り其身を失ふて而して能其親ふ事ふる者吾未之聞ず

御巻父子の間ハ善を責不善を責れば則ち離る離れば則ち不祥ふる大なるハ莫し

子而教之父子之間不責善責善則離

あひだうてハ道を論ひ善悪をバ責ひとべうらびうべし
めて父子の恩義やぶるゝ事ふなり大ふる不祥ふとゝらめべし

離則不祥莫大焉

あの故ふ古へハ互ひ子を易て父子の

○孟子曰事孰為大事親為大守孰為大守身為大不失其身而能事其親者吾未之聞也不失其身而能事其親者吾未之聞也孰不為事事親事之本也孰不為守守身守之本也

従ひ事ハ道ハ孰れも切なり親ふ事ハ肝要なり
とりわけ親ふ事ハ老人ふる事へ貴人ふる事へ

ら〻親ふ事ふ八事之
本也孰う守るこ為
不らん身を守ふ守
リ之本也

曾子曾皙を養ふ
必らず酒肉有将ふ
徹せんと将必らず與
ふる所を請餘有やと問
バ必らず有と曰曾
皙死ま曾元曾子と
養なふ必らず酒肉
有将ふ徹せんと将與
ふる所を請不餘有と
問バ亡と曰将以
て復進めんと将此
謂所ㇾ體を養
者也曾子の如八則ハ
ち志ざ〻を養ふ
と謂可也

親ふ事て曾子の
若者可也

孟子曰く人與ふ適ふ
足不政ど聞ふまる
ふ足不惟大人能君
の心之非を格と為君
仁あまバ仁あ〻不
こ莫君義あまバ
義あ〻不こ莫君
正一なまバ正〻不
こ莫一なび君を正
て而一て國
定まる

初なり本ろまよう
身を守まかん要ろう
家を斉へ國を治の天下を平うれ
ら〻身をよく守まて八能ふ依て身を守ふ守ふの
本なうん古へよう身行をよく守て親ふ事ふの八聞
しのど身行をよう失ろりの
親ふよく事ふ〻とを聞ふ曾子養曾皙必ふ
有酒肉将ふ徹せんと将必らず與ふ問有餘必ふ曰有。
所謂養口體者也若曾子則可謂養志
也ふ〻曾子父の曾皙を中〻ふ事ふ〻その撰ふう酒
肉うて奉まろうて賜を徹ふ〻と将ふ餘の
ありやとまバ人う對んや辞を請問ふ〻ろう父まと外う餘
のあまバ人う對んや辞を請問ふ〻ろう父まと外う餘
養なふ事親若曾子者可也
親ふつふこと曾子
の〻ふ〻なふ〻ふ八曾元ふなう父曾子ふ事ふ〻餘をも
請問ぎまふ父の問ふも亡とまふ〻なろうこれ八復父ふ奉
まりふんのごんどようふろうて人う與ふこと孫の八ぎ曾元
の道八父を養なふ曾子の道八その志ざ〻を
○孟子曰〻人不足與適也政不足問也
唯ふ〻うんとなう孟子の曾元ふなう父曾子ふ事ふ〻餘をも
その意の厚ふさこと
惟大人爲能格君心之非君仁莫不仁
君義莫不義君正莫不正一正君而國定矣
國家の政道八君の心を正ふ〻あう君たる人を用のふこ
非なることあろと。適るに足不政道うさに過失のうこと。
間ふようびり〻大徳の人君の心を正ふ〻こそうてもろもろ
ふ八國治まう民定まることを掌ごろを一指ざんが如く
定まる

孟子の曰不虞之譽有求全之毀之謂有

孟子の曰人之患ハ好で人の師為ル在

孟子の曰人之其言を易るを責ること無耳矣

○孟子曰有不虞之譽有求全之毀

不虞譽言とあつさりして仕出しそうもなきことに人より譽らるゝことあるをいふ全完の毀といふてもあり毀らるゝことをもとめうまく求らるゝにあらず却て毀を得ることあるなり君子ハ譽言を以て悔を喜ぶべきもの譽そしりを以て人を用ひ舍る事なし

○孟子曰人之易其言也無責耳矣

人ふようて言語を軽易よりくん病あるいましめ人の誤の責をくらけざるべからず耳矣

○孟子曰人之患在好為人師

人の患ハ好で人の師よろづ鬼うく徳を胸中につくりく必ずだちくんべうぞ大徳を好むの人いまし

樂正子子敖小從ゞて齊ニ之樂正子孟子ニ見ゆ孟子の曰子も亦來つて我を見乎曰先生何ぞ此言を出を曰子の來幾ばくも日ぞ曰昔者ならバ則ち我此言を出もまた亦宜ならん今乎曰く舍館未定め未曰く子之を聞ゝ舍館定めて然して後長者を見ると求むる乎

○樂正子從於子敖之齊樂正子見孟子孟子曰子亦來見我乎曰先生何爲出此言也不亦宜乎曰舍館

昔者則我出此言也不亦宜乎曰舍館未定曰子聞之也舍館定然後求見長

者乎樂正子大夫子敖孟子の見ようとおもう樂正子おどろいて曰く何爲にかゝの來ることを言うぞ孟子曰く昔者なら孟子の曰く昔者ならバ幾日の來ること幾日なるぞ樂正子の曰くさらばかくいうこと宜しからずや樂正子の曰くさらば小子ゝ伺がうべきことかうぞ孟子ゝて仰せラるゝハ舍館

曰克罪有

定まりて後ち長者に見とらふ礼義のありてのごとくなるべし

罪ありとするも子細ありてなるべし

あるべきなり従行とともに罪ありとも早く長者ゐ見るの礼をとくなるべし

この事あり長者ハ徳て長ずるものゆゑ

○孟子謂樂正子曰子之從於子敖來徒餔啜也我不意子學古之道而以餔啜也

樂正子ハ仰せあるゝ子敖の子敖ハ王驥え来君子ゝ来るハ徒づゝ餔啜をなるゝものなるゝゆゑ

道をするゝ者のかゝるべきにハあらず

ざるゝとふゝ其罪を正ゝて責るゝ

○孟子曰不孝有三無後爲大

不孝の道三ケ条あるニツゝハ人の阿諛心を曲て不義の名を親ゟおふぐゝニワゟハ家貧ゝく親老るゝ官

孟子の曰不孝ゟ三有後無を大なるゝ為

舜不告而娶無後也君子以爲猶告也

舜ハ父母ゟ告ゟハて妻をめぐるゝ子細ハゝ父母ゟ告うゝ時ハ心を得ゟハざるゝ君子の批判ゟも難のなるべし

告るゝ猶ゝと為

○孟子曰仁之實事親是也義之實從兄是也智之實知斯二者弗去是也禮之實節文斯二者是也樂之實樂斯二者樂則生矣生則惡可已也惡可已則不知足之蹈之手之舞之

仁の実ハ親ゟ事ふゝ是也義之実ハ兄ゟ従ふゝ是也智之実ハ斯二ツの者を知て去弗是也礼之実ハ斯二ツの者を節文ゟる是也樂之実斯二ツの者を樂ゝむ

樂一也則以生
也則以生惡可已也惡可已則其
則以足之之舞之
手之知不

孟子曰天下大悦而歸己猶
悦而歸己猶
天下悦而歸己視天下
歸己猶
悦而歸己猶草芥也惟舜爲然不得乎
悦而歸己猶草芥也惟舜爲然不得乎
親不可以爲人子不順乎親不可以爲子

○孟子曰天下大悦而將歸己視天下
悦而歸己猶草芥也惟舜爲然不得乎親不可以爲人子不順乎親不可以爲子

舜盡事親之道而天下化瞽瞍底豫瞽瞍底豫而天下之爲父子
舜盡事親之道而天下化瞽瞍底豫瞽瞍底豫而天下之爲父子
者定此之謂大孝
者定此之謂大孝

舜盡事親之道而天下化瞽瞍底豫瞽瞍底豫而天下之爲父子者定此之謂大孝

離婁章句下

孟子曰舜生於諸馮遷於負夏卒於鳴
孟子曰舜生於諸馮遷於負夏卒於鳴

畢郢亦卒之西夷之人也

條東夷之人也文王生於岐周卒於畢郢西夷之人也（此段古聖人を論じ給ふの辭帝舜ハ諸馮といふの土地に生れ文王ハ岐周といふ處に生れ畢郢ハ東夷の地なるにも拘らず其揆一也

負夏といふ土地の都を置一鳴條といふ處に卒といふ土地に生れ

地之相去千有餘里世之相後千有餘歲志を得て中國に行はれ符節を合するが若し先聖後聖其揆一也

里世之相後也千有餘歲得志行乎中國若合符節先聖後聖其揆一也（東西土地の相去千有餘里なる世の相後るゝも千歲有餘なるも志を得て中國に行はるゝことハ仁德を以て万民歸服するやうハ符節ハ玉こそ作れ中約束のたがはざる信なることのよう分て一方づゝ持居て約束のたがはざる信なることのよう誠に先代も後世の聖人もおしなべて仁智の揆ハ一理なることそ○近來儒を學ぶものゝ中華を尚び東夷を賤しめ過ぐるの論あるハ

動もすれバ天朝をも憚らず稱ぜる處の聖人も東夷西夷の人なる由を聽て於中華の人を漆淆ハ溱洧と云ふ川を過ぐるに寒のあるふうふ徒滅の旅人あるを救ひ其人ぐを濟ふ處の輿を

○子產聽鄭國之政以其乘輿濟人於溱淆（鄭の大夫子產國の政道を聽ハ

穆穆なる眞の天子の盛德あるを仁布先生華夷別なきの說その理可なり博

子產鄭國之政を聽其乘輿を以て人を溱洧ハ溱洧と云ふ川を過ぐるに寒のあるふうふ徒滅の旅人を濟ふ處の輿を

孟子の曰惠ハ政ごとを為を知らず不

歲十一月を徒杠成十二月を輿梁成民未涉を病未

知為政

覺ざるを批判ふ子產の所為ハ惠にして政道の本意にあらざるを

成民未病涉也

歲十一月徒杠成十二月輿梁

王者の政道ハ大体の志にあり歲の九月頃より及ぶべくハ徒

君子其政ヲ平ラうゑせバ行ヲ修ヲ辟ケ人ヲ得テ而ソ之ヲ濟さん故ゆゑ政ヲ為者人毎うて而ソ之ヲ悦バも日も亦足不也焉得人人而濟之故爲政者毎人而悦之日亦不足矣

右の如く上ていふ君子ハその政道を平こと問くいさん今の九月十月なう十二月とうゑハ夷ヲもらさくそ成就もとなう志ヲかくことなく工ヲ作ヲ辟ケ人ヲ得ハ万民あまねく潤ほくそ病まなくそ

孟子齊の宣王ヲ告て曰君之臣ヲ視こと手足の如あれバ則ち臣君ヲ視こと腹心の如一君之臣ヲ視こと犬馬の如くなるべバ則ち臣君ヲ視こと国人の如一君之臣ヲ視こと土芥の如くあれバ則ち臣君ヲ視こと寇讐の如一

○孟子告齊宣王曰君之視臣如手足則臣視君如腹心君之視臣如犬馬則臣視君如國人君之視臣如土芥則臣視君如寇讎

宣王ら時下ヲこうむて法度ヲるし給ハバ孟子告ゆふ君臣ハ父子の如くなるべきなう子產が如くあて人ヲ辟ケもるることも不仁ハあるべバ馬ヲもて乘ヲ以て我の人くヲ濟ん者ハ誰ヲ以て我の人くヲ辟ケ者ハ誰ヲ以て我の人くヲ濟ん故ゆゑ政ヲ尊ことを務ムべしと人毎ニ悦こぶことなくるの日もなくざるべしなり

君ヲ視こと手足の如くあれバ則ち臣君ヲ視こと腹心の如一君之臣ヲ視こと犬馬の如くなるべバ則ち臣君ヲ視こと国人の如一君之臣ヲ視こと土芥の如くあれバ則ち臣君ヲ視こと寇讐の如一

孟子齊の宣王ヲ告て曰君之臣ヲ視こと手足の如あれバ則ち臣君ヲ視こと腹心の如一君之臣ヲ視こと犬馬の如くなるべバ則ち臣君ヲ視こと国人の如一君之臣ヲ視こと土芥の如くあれバ則ち臣君ヲ視こと寇讐の如一

○孟子告齊宣王曰君之視臣如手足則臣視君如腹心君之視臣如犬馬則臣視君如國人君之視臣如土芥則臣視君如寇讎

宣王ら時下ヲこうむて法度ヲるし給ハバ孟子告ゆふ君臣ハ父子の如くなるべきなう子產が如くあて人ヲ辟ケもるることも不仁ハあるべバ馬ヲもて乘ヲ以て我の人くヲ濟ん者ハ誰ヲ以て我の人くヲ辟ケ者ハ誰ヲ以て我の人くヲ濟ん故ゆゑ政ヲ尊ことを務ムべしと人毎ニ悦こぶことなくるの日もなくざるべしなり

君ヲ視こと手足の如くあ

王の曰礼ある舊君の為ふ服有何如ぞ斯ふ服を為可曰諫めて行あへを言聽膏澤民ふ下故有て去ハ則ち君人を使て之を道導さ疆を出又其往所ふ先ざ之て三年及ら不然ーて後ふ其田里を收此之を三有礼く謂此ノ如らんハ則ち之ざ為二服も如さりのもあうとぞ蒞城藩士の中ふて僅うっ四十餘人なるうを以て擬べー

王曰禮為舊君有服何如斯可為服矣曰諫行言聽膏澤下於民有故而去則君使人道導之出疆又先於其所往去三年不反然後收其田里此之謂三有禮焉如此則

宣王ののひとろハ礼法ふの舊き主君の為ふ喪ふくを着ることあり如何なる道理ぞそれ子細ありまづ君ふ諫言を奉ゆるをハさらそく御聽さゞけありてその事行ハれて役人へ仰付らるき道引あり國をとち去とき君より音沢民よあまねく下ふ及ぼしたる恩澤を經ても反ざるをハ然後ふその田里をとう收めることなう隠者となりて憐愍ありて君の為ふ喪服をきらべきことなり此段右宣王の為ふ説うるもの然ーても君ふくるかハ此理をさとり得て形勢の難をふそぐべきころ

今也為臣諫則不行言則不聽膏澤不下於民有故而去則君搏執之又極之於其所往去之日遂收其田里此之謂寇讎何服之有

今の世の君ふる方ハ諫言えよう聽入ふ行故ー膏澤ハ元よう民ふ下ざりー故ありてえ去ハ搏執んとん徒さきの仕事をまでうるようなうえ極うとなうえるの日もまぐさえるその田野をとう收めることこれを寇讎とハ名づくかぞうなる仕合もってでう有んや

孟子の曰罪無くして士を殺さば則ち奏以て去可罪無くして民を戮せば則ち士以て徙可

孟子の曰君仁なれば仁ならざること莫く君義あれば義ならざること莫

孟子の曰非礼之礼非義之義大人は為ざる所

○孟子曰無罪而殺士則大夫可以去

無罪而戮民則士可以徙

君ありて罪なきに諸士を殺すべき大夫の官縁を去べし一えて土地を去べし罪もなくして民を殺すべき士ざるの官縁をとらざるべし一えて土地をうつすべからざるなり

○孟子曰君仁莫不仁君義莫不義

この章上ふこと然ども子孟子の御事にのみそ主として説ふとあれども上ふこと理を正しつつめうえその義ありて礼とありのあり礼とありのあり礼とありのあり礼とありのあり

○孟子曰非禮之禮非義之義大人弗為

礼とあざる礼となどとも始ようり礼とありのあり礼とありのあり礼とありのあり礼とありのあり

もつて上むき義理を行うて義うあざる事ありをこころえうく理を察せざるあやまち

孟子の曰中不中を養ちひさきハ不ずを養なお故に人賢父兄有を樂一む如中不中を棄ハ則ち賢不肖之相去其間すをいて能ハ不

孟子の曰人為不ること有而一く後おいて為てこと有可

○孟子曰中也養不中才也養不才故人樂有賢父兄也如中也棄不中才也棄不才則賢不肖之相去其間不能以寸

中とハ過ることなく不及ことなきなり拙ハ行ならざるなり賢なる父や兄弟のある樂こにおりもとハ己が不肖なる德をそだてらるしかるりの拙あるものより不中不才をもてさバもつて道をまもることりのうえて不肖の人と異ることなくたとへバその間ずまるのそうな

○孟子曰人有不為也而後可以有為

人ハ異なる人ハそうむことのあるゆえうに人の為ざることバ為ざるを以なりうそをゆえうこと為ことのあるにハ日ざりのなう常ならざることのあるかう

孟子の曰人之不善を言ハ當如後患を如何ともすべき

孟子の曰仲尼ハ已甚しきを為不者をり

孟子の曰大人者言信を必ずとせ不行ありひ果ぎを必ずとせ不惟義の在所

○孟子曰言人之不善當如後患何

凡て口ふそうして益なきことを言て却て後の心患を如何ともすべきことを

○孟子曰仲尼不爲已甚者

聖人ハ天地の神明人道の正きこと万代不易の道を説ふこと孟子評一ツの聖人ハ已甚しきことハ俗人の不思議奇妙などゝくることなきの理をあらハす時ハ聖人の道の諸学の外更に一事なくとハ述ふハどとぞ已甚きことハ俗人の不思議奇妙などゝくることなきの理をあらハす時ハ聖人の道の諸学の道の勝をることおのづから覚ゆべしとなり

○孟子曰大人者言不必信行不必果

必て仕果をとなふ信ともなふ両ながら義ありや否を明らかにして只義理の有

孟子の曰大人者其赤子之心を失なハざる者也

孟子の曰生を養ふ者以て大事ふ當るふ足不惟死を送りて以て大事ふ當可

孟子の曰君子深之を造むる道を以て

○孟子曰大人者不失其赤子之心者也

赤子の心を失ふハ元来大徳の人ハ潔く清て偽りなき赤子の心を因て鏡の物をてらすごとく万事ふ應ずる

○孟子曰養生者不足以當大事惟送死可以當大事

養ハ世に存生ことをなり富貴の人も身くことなく常なう然ぐる大事ふのぞんで生を心にかくる者ハ取るべき君子ハ身父母つかふる身夫に負節をいぐくの徒輩ふをも生を心にうけて其操節をかくことこそ

○孟子曰君子深造之以道欲其自得

之也自得之則居之安居之安則資之
深資之深則取之左右逢其原故君子
欲其自得之也　君子學問をなして深く其源に
造る道ハまづ自得の工夫あるべし

○孟子曰博學而詳說之將以反說約
也　學問の道ハ博く學びてその理を詳らかに説示すべし然ども徒つらつらに博く詳らかならんハ
益なし深く通ると賛るなり深く賛るとハ肝要の約の場所へ出て事寡くしてよく
其事の理を會得するをいふ

○孟子曰以善服人者未有能服人者
以善養人然後能服天下天下不心
服而王者未之有也　善とハ凡そ人を服するの
詞をいふ然ども善とハあらゆる善を盡して人を服するハ
一心の服せざるなり子細ハ當今の善教
を服する心根元來他人の説を勝らんと欲ふる
事を以て人を養なひ撫育の人人く心服をなさ
ざるたぐひなり天下の人心ようの
公とわざとの服せざるハ天下の王たる者ハらざるなり

○孟子曰言無實不祥不祥之實蔽賢
者當之　天下の間の言ふ所の事實の不祥なるを實と不祥なる
ものハ當るべからず

孟子の曰善を以て人を服する者未だ能人を服する者有ず善を以て人を養ひ然して後ず能天下を服す天下心服せずして而して王たる者未之有未

孟子の曰言實の不祥無不祥之實賢を蔽者之ず當

○徐子曰仲尼亟稱於水曰水哉水哉
何取於水也（徐子の問ろう）（聖人亟く（水の
嘆）（なるを稱して水なるこうをくと感
水に取ふるの理ありてや）孟子曰原泉
混混不舍晝夜盈科而後進放乎四海
（御吾之原根ありて泉よく混混ことこと
有本者如是是之取爾（或ハ稗なる処あるハそれも
の水ハ晝夜の十分盈てその次へなうる進こつのに四海のことをふも
至ふなう本来の根原ありて貯あつこと者ハこのかくの
如しこの意を取ふたるハ大徳ハ人ことおうぶことのかくの
如しこ實ふ行ふふ已ことあるハ
次第ゆさわうこと已ことあるハ
苟爲無本七八月之間雨集溝澮皆盈其涸也可立而待
（苟ふこと本ふ根もなきものハ
七八月の比暴の雨して洪水集ありて出るが
如しこ溝澮ハ十分あふるまでどもその涸ひあつる
ものなことの故ふう待てふらうことなう此ハ原泉の混々る
ふ徳うくしてふ實情ハ過ぎくそ
君子恥ふしてふ名の声世の間ふくとも胷中
也故聲聞過情君子恥之（苟ふこと本ふ根もなきものハ
バたとへバ七八月の比暴の雨して洪水集ありて出るが
如しこ溝澮ハ十分あふるまでどもその涸ひあつる
ものなことの故ふう待てふらうことなう此ハ原泉の混々る
ふ徳うくしてふ實情ハ過ぎくそ
君子恥ふしてふ名の声世の間ふくとも胷中
也故聲聞過情君子恥之（苟ふこと本ふ根もなきものハ
○孟子曰人之所以異於禽獸者幾希
庶民去之君子存之（禽獣ふよう虫奥有毒のもの
をうけて形気を得ふるまでハ喜怒哀楽の性ふそなふ
然ふる形気正しふ故ふの本心の徳
とふふりのふ人と禽獣の分別異ふるもの幾ふと
希ふなう庶の愚民ハおのく已身ふる本心の徳ふと受得ふる
性ふとふふりのふそふと去ふう故ふ名ハ人ふとい
を存也（人之禽獣に異ハ幾ふと
君子之を恥ふ

發蒙物を明らかに獣と異なる君子の徳は性より受得たる本心の徳を存する故なり

人倫を察す

仁義より由て行ふを仁義を行ふと云ふ非ぎ

於人倫由仁義行非行仁義也

（此土人舜帝ハ無キの事々物々の理を明らかに知て察らの小辨ふ人倫の道を治めそのへなふ仁義の至徳自ら備るその門由万民ふ施して行ひそれを行ふとふハあらざるを必ず仁義を義とふ

○孟子曰禹惡旨酒而好善言

禹王の御宇小儀狄といへる者酒を作て奉ふる王されを嘗て旨く〳〵ふるを悪ふうして必その酒ゆへ國を亡そふなりのあんとなるまでふ今ふう後の世ふうて賢徳の人とあるをバ知あげてふ仁義を義とふ必ず拝〳〵ふるふとハ貴人の賤きふ交りハ深ふ浅きふとてふ中庸の道を好ふまでふうとふうとの如くなるふ

湯執中立賢無方

湯王ハ常ふ

湯中を執賢を立るに方無〳〵

文王視民如傷望道而未之

文王常ふ民百姓を視ふうじてハ何そ心ふ傷かふ〳〵く遠くふるをそ武王ふハゆるのせたる者ふうのと武王ふハあ〳〵せよなど御徳のさふふるかくのごとく

武王不泄邇不忘遠

主君ふう者の心さまでくそをなる者ふハ押ふ

傷心が如く道に至事なくとそ

人で未之を見未ざ而〳〵

武王邇きふ泄不遠きを忘ふと不

周公思兼三王以施四事其有不合者仰而思之夜以繼日幸而得之坐以待旦

周公ハ右三代の王の心を兼てふの四ケ条を施し行ふくの思召のごとくあるとバ上代の事を仰きふふくて一心に合ざるとハ夜もすがら心よ愚念して明の日ふうびかり幸ひよとげ行ふふ得ふまでその明日を待

孟子の曰王者之迹熄て詩亡ぶ詩亡びて然て後ち春秋作る晉之乘楚之檮杌魯之春秋一也

其事ハ則ハち齊桓晉文其文ハ則ハち史孔子曰ま ハ其義ハ則ハち丘竊ミ ふ之を取

孟子の曰君子之澤五世ホーて斬小人之澤五世ホーて斬

予未孔子の徒為を得未子私ふ諸を人ょ淑も

孟子の曰以て取可以て取と無る可取

うそていのふもあるとそを称ぶひゐやとなり

○孟子曰王者之迹熄而詩亡詩亡然後春秋作晉之乘楚之檮杌魯之春秋一也

聖人王者の政道おこなはれその迹うと熄てて詩の作ハ周の衰代天下の風俗人情を察しゐんあらわせ世間に歌謡その音曲の意と考うへ今の詩經これなり詩亡てのち ハ史官の人〳〵をして君の言行大小の事實善惡ことを記しるさせ左史右史となり魯の國にてハ春秋と名付晉の國にてハ檮杌と名つけ楚の國にてハ梼杌と名付けそうひ其義理同しく風体ふうていおもむき依て一ツなりとはいへり

其事則齊桓晉文其文則史孔子曰其義則丘竊取之矣

中ふ古より其事とうにハ當時の事にて覇者とハ齊の桓公晉の文公等の如きハ則ち史官の記録なり其文辞ハ則ち史官の記録をうらゆるなりそれ其義ハ則ち聖人の褒貶をうるなり因て諸を此書ハ未世王公の大法となるものなり

○孟子曰君子之澤五世而斬小人之澤五世而斬

おうふりの君子小人ハ位を以ていふ澤とハ恩沢なり世人の徳あて後世へ傳ふるをいふ大抵君子小人ハかくのごとくその恩沢も五世にて絶るものなり五世の内ならバその沢を興ふるとあるへしとぞ

予未得爲孔子徒也予私淑諸人也

予さうの五世のうちに聖人と百餘年を隔たれハあうまじきの御徒輩の遊ふ人うに就て淑ふ。私竊その聖人の門に滅ろ〳〵へおもふ〳〵となり

○孟子曰可以取可以無取取傷廉可

バ廉を傷る以て與ふ可以て與ふること無る可與ふるバ惠を傷る以て死を可以て死ること無る可死せバ勇を傷る

逢蒙射を羿に學ぶ學ぶ盡く羿之道を盡くして思ふ天下惟羿已れに愈ると為是を於て羿を殺す孟子の曰是亦羿も罪有公明儀曰宜く罪無が若くある宜曰爾云う薄き悪んを罪無を得ん

鄭人子濯孺子を使衛を侵す衛庾公之斯を使之を追ふ子濯孺子の曰く今日我疾作る以て弓を執可らず不吾死ん夫其僕に問て曰我を追者バ誰其僕曰く庾公之斯也曰吾生ん其僕曰庾公之斯バ衛之善射る者也夫子の曰吾生ん何謂

以與可以無與與傷惠可以死可以無死死傷勇人ようの物を吾へ取べきこと無る可與ふるバ惠を傷る以て死を可以て死ること無る可死せバ勇を傷る

逢蒙射を羿に學ぶ學ぶ盡く羿之道を盡くして思ふ天下惟羿已れに愈ると為是を於て羿を殺す孟子の曰是亦羿も罪有公明儀曰宜く罪無が若くある宜曰爾云う薄き悪んを罪無を得ん

○逢蒙學射於羿盡羿之道思天下惟羿爲愈己於是殺羿孟子曰是亦羿有罪焉公明儀曰宜若無罪焉曰薄乎云爾惡得無罪焉

逢蒙ハ古への弓の名人上手なり逢蒙と羿ハ古への弓の名人上手なり逢蒙と羿ハ古への弓の名人上手なり逢蒙と羿

端人也其取友必端矣庾公之斯至曰夫子何爲不執弓曰今日我疾作不可以執弓曰小人學射於尹公之他尹公之他學射於夫子我不忍以夫子之道反害夫子雖然今日之事君事也我不敢廢抽矢扣輪去其金發乘矢而後反

子細ハ今日大切ノ道ヲつくろふハ先其人ヲ撰ンデ秘術ヲもさづくべきれ爲人ヲも見ざりて大事ヲ明ラメしハ不智なりむかし鄭の國より衛の國を攻うとりるその時の大將ハ鄭の達人ホ子濯孺子とう者をつかハしつるに衛も庾公斯とらくる弓の達者を討手に向らる子濯孺子俄ニ持病ニ起りて僕に向て曰く敵の大將ハ誰人ぞや答て曰く庾公之斯なりと孺子曰く庾公之斯ハ夫子の藝道をつくへ受て又その道を以て夫子を害ハ忍ぢ然ども君の命なれバ矢金を去乘の矢を發して帰るべしと而して後反る

孟子の曰西子不潔を蒙ハ則ハち人皆鼻を掩て而して過ぎ去を過

惡人有ども齋戒沐浴セバ則ハち

也我敢て發せず矢を抽輪を和を其金を去乘矢を發して而して後反る

○孟子曰西子蒙不潔則人皆掩鼻而過之

西子ハ古への美人なり西施の如き女皆美々布とおりうるべし然ども不潔なる者を身ニ蒙居ハ誰人ぞそも鼻を掩ひかくして過なるべし

雖有惡人齋戒沐

ち以て上帝を祀る可

浴則可以祀上帝　今まゝかこち惡醜人なり。齊戒沐浴をなして祀るべし

孟子の曰天下之性を言へば故己故と者利を以て本と為

○孟子曰天下之言性也則故而已矣

故者以利爲本　天下の人の性をいふなり。もむたその故跡に付てこれを知

而已孺子の井に入をみて心を起し軈ち詞の食物ハ飢て死ものも側隠しい食せざるハ仁義の心自ら就てこれを見ハるる性の自然ら順利の道なり利も順ハ故跡ら誠ハ性のまゝにて利順ハるゝ道にのなるもこれ自然順利の故ことにあるなり

所惡於智者爲其鑿也如智者若禹之行水也則無惡於智矣禹之行水也

智ふ惡む所の者ハ其鑿ゝ為なり如智者禹之水を行ハ其鑿ゝ無所ふ行ハ則ハち智も亦大ひなり

行其所無事也如智者亦行其所無事則智亦大矣　人の智ハ自然ら性ら出るものにて世の人の智を用ゆるに惡のさまてこハかの穿鑿をなして妄理なるをしらずして故ら識ら禹王の水を治めうるごとく自然のことに用ゆるハ故なり

禹王の洪水を治るの澈ハ四の大瀆ら海へそゝぐるのごとくそのさまハ智も又大なる小人の小智自ぜんら事並ら〳〵とそなはるの為なり

天之高也星辰之遠也苟求其故千歲之日至可坐而致也　天高く星の辰も遠くして測ることをも前代をも後世をも測ら〳〵なり天の行ハ定めあるて髪ゞ星辰の度ハ數あるて乱ることなし其理を求めるハ千万年の遠るその故ら〳〵就て其理を求めるハ千歲の日至ハ坐而致ことなり

○公行子有子之喪右師往弔入門有

公行子子之喪有右師往て弔を聞く

て進て右師與言者有右師之位ふ就右師與言者有

孟子右師與言不右師悅こび不て曰諸君ず皆驩與言孟子獨驩與言不是驩を簡ふする也

孟子之を聞て曰禮朝廷ふハ位を歷相與ふ言不揖せ不我礼と行ありと敬ず子敬我を以て簡るりと為亦異たり不ず耳

孟子の曰君子の人ふ異たる所以の者其心を存るを以て君子ハ仁を以て心ふ存礼を以て心ふ存

仁者ハ人を愛も礼有者ハ人を敬ま人を愛る者ハ人恒ふ之を愛ま人を敬る者ハ人恒ふ之を敬

進而與右師言者有就右師之位而與右師言者齊の大夫公行子といふり子死右師王驩往て弔をなおもうられ趨走る人く右師ハ權ることを以て接ひるもの多ー或ハ右師と間數ぐるー人ハ位を立らくて右師の坐ちゃくもあるー孟子不與右師言右師悅ひざるを言ひ孟子ハ右師ふ言ハざるの人なりと諸君子よハしづまも我とりのらハざる人なりー孟子略ふらくるハいかのならんとそ

不悅曰諸君子皆與驩言孟子獨不與驩言是簡驩也孟子ハ右師悅ひざるを言ひのハ右師ふ言ハざるの人なりー孟子諸君子よハしづまも我とりのらハざる人なりー孟子略ふらくるハいかのならんとそ

孟子聞之曰禮朝廷不歷位而相與言不踰階而相揖也我欲行禮子敖以我為簡不亦異乎孟子聞めーて例へあ君の朝廷ふてハ位階を歷て相與ふ言の話ありと雖ハ相揖をなるごとくてあり官職ある人の家ふハ朝廷の例ふ順じて可なり今ふれ礼を行ふふが仰ふ右師と言いさぞまうて徒輩を悅こぶとハ誠ふ異りー礼なさ

○孟子曰君子所以異於人者以其存心也君子ハ仁存心以禮存心

今日君子と唱て常人と異なるゆみハ本心の德を存養なくりふるを以てなり君子ハ仁と礼とを心ふ存養まるなり

仁者愛人。有禮者敬人。愛人者人恒愛之敬人者人恒敬之仁者ハ人をあさーく愛を礼ある人ハ人を恭敬ずる

愛ふ應そ擊バ響を施まるれバ人よりもまく我を愛ー人を敬さるれバ人よりもまく我を

人此必有其我之待也而後橫逆之來至則
必橫逆也我必不仁也必無禮也此物奚宜至
焉君子必自反也自反而仁矣自反而有禮
矣其橫逆由是也君子必自反也我必不忠
自反而忠矣其橫逆由是也君子曰此亦妄
人已此則與禽獸奚擇於禽獸又何難焉
於後世我由未免爲鄉人也是則可憂也
憂之如何如舜而已矣若夫君子所患則
有一朝之患也乃若所憂則有之是故君子有終身之憂無一朝之患也
舜人也我亦人也舜爲法於天下可傳也我由未免爲鄉人也是則可憂也憂之如何如舜而已矣若夫君子所患則

如一朝之患へ有ハ則ハち君子ハ患へ不ル
禹稷平世ニ當テ三ビ其門ヲ過ルとも入不ル孔子之を賢
とし顔子亂世ニ當テ陋巷ニ居一簞の食一瓢の飲人其憂ヘ
ニ堪不ル顔子其樂ヲ改ムること不ル孔子之を賢とし孟
子の曰く禹稷顔回同道

禹ハ思ふ天下溺ル者ハ猶己レ之を溺ル
るが如ク稷ハ思ふ天下飢ル者ハ猶己レ之を飢ル
るが如シ是を以て是の如ク其急也禹稷顔子地を易バ則ち皆
然らん

今同室の人鬬ふよ者有之を救ふハ雖髮を被り纓冠
して之を救ふと

りとも可ナリ然ハあれども小人の如ク自ラ見ル耳ニ
世上の常の心患とするハさるにより君子の憂
とハ何ぞや憂ると曰一義あるなり舜も人なり我も人
なるに舜ハ法を天下に施し我ハ鄙人なることを
憂とするなり君子に一朝の憂とハ志し
仁ならざるあるを謂ふ
行ふことなくとハ

○禹稷當平世三過其門而不入孔子賢之（トス）（平聲）

禹稷ハ平世ニ當テ三ビ其門ヲ過ルとも入不ル孔子ハ賢とのたまハざるや聖人之を賢とのたまふハ治まる御代を平世ともいふ

顔子當亂世居於陋巷一簞食一瓢飲人不堪其憂顔子不改其樂孔子賢之孟子曰禹稷

顔回同道

顔子ハ亂世ニあくまで陋巷ニ居て一簞の食一瓢の飲ニ堪ル程ニ貧なりとのたまふハ治まる御代ニハ道をおこなふ人多ければ顔子ハ其一人ニ數ニ入ラざるの一事なり

禹思天下有飢者由己飢之也稷思天下有溺者由己溺之也是以如是其急也禹稷顔子易地則皆然

禹王ハ水を治めたまひ后稷ハ五穀を司どりたまふ天下の民一人も水に溺るゝことのあるハ禹王の己レ溺らすが如く一人を苦めしことのあるハ后稷の己レ飢ゑしめしが如くなり今右の三賢ハ各ゝ其ノ人を憐ミ救ふこと皆其ノ然ラざるべからざるの事ニ當ルゆゑ同ジからんと

今有同室之人鬬者救之雖被髮纓冠而救之可也

今同室の人鬬ふよ者有之を救ふハ雖髮を被り纓冠
して之を救ふと可ナリ然ハあれども小人の如ク自ラ見ル耳ニ

經典餘師

雖ごくも可也

鄰鄰ふ鬪ふ者有ん髮を纓冠して往て之を救ふ則ち惑なり戸を閉と雖ども可也

公都子曰匡章通國皆不孝と稱す夫子之與遊ふまゝ従うて之を礼貌す敢て問何そや

孟子の曰世俗ゟ所謂ゆる不孝なる者五つ其四支を惰り父母の養ひを顧ず不二の不孝也貨財を好み妻子を私ひて父母の養ひを顧ず不三の不孝也耳目之欲に従ひて父母の戮を為ず四の不孝也勇を鬪うひ狠以て父母を危ふ五の不孝也章子是ふ一有乎

夫の章子子之善を責て相遇不也善を責る八朋友孝也博奕飲酒を好ふ父母の養ひを顧ず不二の不孝也

○公都子曰匡章通國皆不孝焉夫子之與遊ふまゝ従而禮貌之敢問何也

孟子の曰世俗ゟ所謂ゆる不孝なる者五つ其四支を惰り父母の養ひを顧ず不二の不孝也貨財を好み妻子を私ひて父母の養ひを顧ず不三の不孝也耳目之欲に従ひて父母の戮を為ず四の不孝也勇を鬪うひ狠以て父母を危ふ五の不孝也章子是ふ一有乎

夫の章子子之善を責て相遇不也善を責る八朋友ゟ規ゟ切ゟ責ゟ善ゟ之ゟ道ゟ也父子ゟ間ゟ不ゟ責ゟ善ゟ也責善ゟ則ゟ離ゟ離ゟ則ゟ不ゟ祥ゟ莫ゟ大ゟ焉ゟ夫ゟ章ゟ子ゟ父ゟ子ゟ之ゟ間ゟ豈ゟ不ゟ欲ゟ其ゟ善ゟ哉ゟ然ゟ而ゟ不ゟ相ゟ遇ゟ以ゟ善ゟ也ゟ古ゟ者ゟ易ゟ子ゟ而ゟ教ゟ之ゟ所ゟ以ゟ愛ゟ其ゟ子ゟ也ゟ教ゟ者ゟ必ゟ以ゟ正ゟ己ゟ正ゟ己ゟ而ゟ後ゟ物ゟ正ゟ焉ゟ章ゟ子ゟ有ゟ不ゟ正ゟ之ゟ心ゟ乎ゟ則ゟ必ゟ自ゟ以ゟ為ゟ正ゟ己ゟ而ゟ正ゟ之ゟ矣ゟ以ゟ正ゟ己ゟ而ゟ正ゟ之ゟ則ゟ相ゟ夷ゟ矣ゟ相ゟ夷ゟ則ゟ安ゟ得ゟ不ゟ離ゟ離ゟ則ゟ安ゟ得ゟ不ゟ相ゟ遇ゟ以ゟ善ゟ也ゟ

髮纓冠而往救之則惑也雖閉戸可也

鄰鄰ふ鬪ふ爭ふ之ゟ間ゟ髮ゟ纓ゟ冠ゟ而ゟ往ゟ救ゟ之ゟ則ゟ惑ゟ也ゟ雖ゟ閉ゟ戸ゟ可ゟ也ゟ

○公都子曰匡章通國皆稱不孝焉夫子與之遊又從而禮貌之敢問何也

公都子の問なり匡章ハ国ゟ中ゟ之ゟ人ゟ皆ゟ不ゟ孝ゟ之ゟ人ゟ也ゟ夫ゟ子ゟ之ゟ門ゟ人ゟ独ゟ与ゟ之ゟ遊ゟ而ゟ礼ゟ貌ゟ之ゟ何ゟ也ゟ

孟子曰世俗所謂不孝者五

孟子の曰世俗ゟ所ゟ謂ゟ不ゟ孝ゟ者ゟ五ゟ

惰其四支不顧父母之養一不孝也好博奕飲酒不顧父母之養二不孝也好貨財私妻子不顧父母之養三不孝也從耳目之欲以為父母戮四不孝也好勇鬪狠以危父母五不孝也章子有一於是乎

御ゟ啓ゟ小ゟ吾ゟ世ゟ俗ゟ之ゟ不ゟ孝ゟ者ゟ五ゟつゟあゟるゟをゟ批ゟ判ゟ之ゟ一ゟつゟハゟ己ゟが身ゟ体ゟ四ゟ支ゟの安ゟ楽ゟを好ゟみゟ父ゟ母ゟの養ゟを惰ゟり父ゟ母ゟの好ゟみ酒ゟを飲ゟみゟ二ゟつゟハ金ゟ銀ゟ財ゟ宝ゟを貪ゟり妻ゟ子ゟ妾ゟ婢ゟに物ゟをゟ与ゟへゟ父ゟ母ゟの養ゟを闕ゟくゟ三ゟつゟハ名ゟ聞ゟをゟ好ゟみゟ日ゟ本ゟ国ゟ中ゟに栄ゟ耀ゟをゟひゟさゟらゟかゟすゟ妻ゟ子ゟ妾ゟ婢ゟに物ゟをゟ与ゟへゟ父ゟ母ゟの養ゟを闕ゟくゟ四ゟつゟハ血ゟ気ゟの勇ゟにゟよゟりゟてゟ人ゟと狼ゟ戻ゟひ闘ゟ軋ゟて父ゟ母ゟよゟ危ゟうゟくゟしゟもゟるゟなゟりゟ五ゟつゟハ不ゟ孝ゟなゟりゟ今ゟ匡ゟ章ゟハゟ此ゟの五ゟケゟ条ゟこゟとゟごゟとゟくゟ有ゟるゟとゟなゟりゟ

夫章子父責善而

之道也父子善を責るハ恩を賊ふ大ひなる者なり

夫章子豈欲夫妻子母之屬ひ為を欲セ不人罪之父ふ得近つくを得不ル為ニ妻を出一子を屏ざけ身終るまで養なハ不其心を設るゝ為是の若るゝ不ハ則ち罪妻子母親のあることを欲べ一ともえう人情なり之大なる者なりと是則ち章子已

不相遇也責善朋友之道也父子責善賊恩之大者

夫匡章ハ父子のあひだ行ひの善悪を責合て却て匡章を行ひ高く父子の間の交接過ざる一なり朋友の道なり一本振つそ大なる不ゝ

大匡章子豈不欲有夫妻子母之屬ひ為得罪於父不得近出妻屏子終身不養焉其設心以為不若是是則罪之大者是則章子已矣

按るに匡章なりとて悪を正をゝぐのなる処ろ

則罪妻子母親のあることを欲べ一ともえう人情なり

悪を正をゝぐのなる処ろ

父ふ得う然ハ父子ふ絶て夫妻を出し居べき子細なり一とて其の外なるものと

曽子武城ニ居越の寇有或ひと曰く寇至盍ぞ去

曽子武城ニ居越の寇有或ひと曰く寇至盍ぞ去

曽子武城ニ居越の寇有或ひと曰く寇至盍ぞ去

子を捨離し終身の心なり一そのこゝろを孟子の推そこなひ給ふ若是よりさら時ハ五ふ罪の大なるもの一ともの意なり

曽子武城ニ居越の寇有或ひと曰く寇至盍ぞ去

と作らるゝ也ハ孟子の章子をよろこふ一ともなりて

曽子武城ニ居越の寇有或ひと曰く寇至盍ぞ去

取ふ一ともあるをその心を知て絶よ一ともの意なり一是則ち章子一人の生得なり一とて

曽子武城ニ居越の寇有或ひと曰く寇至盍ぞ去

えよう世にとうふる不孝一とふ六ものもなり一で父の

曽子武城ニ居越の寇有或ひと曰く寇至盍ぞ去

譬をゝんとを心ふ願て

曽子武城ニ居越の寇有或ひと曰く寇至盍ぞ去

つゝく諫一ようのあやまち

曽子武城ニ居越の寇有或ひと曰く寇至盍ぞ去

○曽子居武城有越寇或曰寇至盍去

諸曰無寓人於我室毀傷其薪木寇退

則曰修我牆屋我將反寇退曽子反左

右曰待先生如此其忠且敬也寇至則

先去以為民望寇退則反殆於不可沈

の曰く先生を待こ
く此の如く其忠ゟ
して旦敬ゟ寇至
るべ則ち先去て
以て民の望ミを為
寇退ぞひて則ち
反る殆んと不可あ
沈猶行曰く是如知
る所ゟ非昔〻沈
猶負芻の禍ひ有
先生ゟ従ゟ者七十
人未與ること有未
子思衛ゟ居齊の寇
有或ひと曰〻寇至

猶行曰〻是非所知也昔沈猶有負芻
之禍從先生者七十人未有與焉

曾子武城ゟ居
寇をひとく或ひとかくと告
立去のつその時曾子の僕セニハ願
と傷ハざるやうにいくーのちニ寇
我室の牆屋等を修復ることなかれ
の門人の曰く武城の大夫ニハ先生を待遇と
敬礼をなうまことあつきゟ
殆んうとあつきゟ
者もの一件知てさ
うゟ時負芻とつゟ
時先生の門人七十人
與うらざるーなうー
とうてかゟーの不
臣下ゟる身の道とハそ

曾子武城ゟ居寇至盍去諸子思曰
於衛有齊寇或曰寇至盍去諸子思曰
如伋去君誰與守

子思の衛に居
ように寇攻来る或人子思に去を
合ーに守うんやとそ
て討死を決ーうひーとなく

孟子曰曾子子思同道曾子師也父兄
也子思臣也微也曾子子思易地則皆
然

孟子批判ーのゟ
行道からべーうべ相遇ーに塲処のたがひにこと
曾子の武城ゟ在ひーハ人ニ師うる御ん身なれバ皆ニ
對ーてハ父兄うー子思の衛ニ居のひーハ臣なうー元ーう
君の為ゟ身を委ゟハ微なうことなうまゝ」に倣て
あうーなうりー曾子と子思と塲処をこのごとくバその行事
おなじ
うーん

儲子曰く王人を使て夫子を瞷果して以て人に異なること有乎。孟子の曰く何を以て人に異ならんや。堯舜も人と同じき耳。

齊人一妻一妾ありて室に處者有其良人出ればかならず酒肉を饜て而して後に反る。其妻與に飲食する所の者を問ば則ち盡く富貴也。其妾を其妾に告て曰く良人出ればかならず酒肉を饜て而して後に反る。其與に飲食する者を問ば則ち盡く富貴也。而未嘗て顯き者有て來未吾將に良人之所を瞷て將に蚤に起て施ゆく所して良人之所に從ひ國中を徧くして與に立て談ずる者無し。卒に東郭墦間之祭者に之て其餘をこひて足ざれば又

○儲子曰王使人瞷夫子果有以異於人乎。孟子曰何以異於人哉。堯舜與人同耳。

齊の人に儲子という者ありその人の話に先日宣王より内々人を以て夫子をうかゞひ瞷しもうしたその躰うかゞひ御咎何ゆえに我も人も異なることのあらざるや人と同じく德なき人と相違なきようにうかゞひ瞷しもうす事と侍る

○齊人有一妻一妾而處室者其良人出則必饜酒肉而後反。其妻問所與飲食者則盡貴也。而未嘗有顯者來。吾將瞷良人之所之也。蚤起施從良人之所之。徧國中無與立談者。卒之東郭墦間之祭者乞其餘。不足又顧而之他。此其

其妻に告て曰く良人出ればかならず酒肉を饜て而して後に反る。其與に飲食する者を問ば則ち盡く富貴也。而未嘗て顯き者有て來未吾將に良人之所を瞷て將に蚤に起て施ゆく所して良人之所に從ひ國中を徧くして與に立て談ずる者無し。卒に東郭墦間之祭者に之て其餘をこひて足ざれば又

食者盡富貴也。而未嘗有顯者來。吾將瞷良人之所之也。蚤起施從良人之所之。徧國中無與立談之。卒之東郭墦間之祭者乞其餘。不足又顧而之他。此其為饜足之道也。其妻歸告其妾曰。良人者所仰望而終身也。今若此與其妾訕其良人而相泣於中庭。而良人未之知也。施施從外來。驕其妻妾。

（齊の國の諺に妻と妾とごが身と三人ありそのうち一者ありて室を處ましまして酒と酔魚肉の饗應にあひて歸ることあるときは酒と

顧て他小之此其
饗足を為之道也
其妻帰て其妾ホ
告て曰良者仰ぎ
望一身を終る所也
今此の若一其妾
與其良人を詬て
中庭ホ相泣く而
て良人未之を知ら
未施施一て外
從來其妻妾ラ
驕る

君子由之を觀ば則
ち人之富貴利達
を求むる所以の者
其妻妾を羞不而
一て相泣不者幾
ど希なり

萬章章句上

萬章問て曰く齊田
ホ往て叟天ホ號泣
を何為ぞ其號泣
する

孟子の曰く怨慕を
る也

萬章曰父母之愛
れバ喜んで忘不父
母之を悪む勞一て
怨不然らバ則ハち

吾與ラあそびて飲食
出會の人ハこる富貴
ホハ殊の外ひ一きと
いふ一ども来きる例なし
ら起て施從ひ良人の
出會て談さそる人なり
あるその祭者の食物の餘を乞りこめて食一
ざるバさ他へ之ていはず因てその妻妾おかしく
ふハ良人ハ終身女の仰望そふ処ろう
とてひそそふ泣て詬ののしる良人ハ之をきらで施々さ顔
色をかへて二人のホ驕をぞ
ふ一ども歸ホ何のごく
由君子觀之

則人之所以求富貴利達者其妻妾
不羞也而不相泣者幾希矣

今よの中の人こる富貴
利達を求めむさぼり一ざる者然ら君子ようの
人の風俗を觀るこゝハその心根の恥一さ右の

萬章章句上

萬章問曰舜往于田號泣于旻天何爲
其號泣也

萬章の問なり旻天ハ秋の天なり舜の母ハ繼母なり
道理ぞ○旻天ハ秋の天なり舜の母ハ繼母なり
象ハその子なり舜の弟なり父ハ頑ぐにして母ハ
悪逆無道なり象ハ孟子曰怨慕也

親ぢの御吞慕のよ
いふの意なり

母悪之勞而不怨父母愛之喜而不忘父

舜怨乎曰長息公明高ニ問テ曰舜田ニ往則チ吾既ニ命ヲ聞テ之ヲ得ヲ昊天ニ父母ニ號泣スル則チ吾知ラ不公明高曰是爾ガ知ル所ニ非ズ夫公明高孝子之心ヲ以テ是ノ若ク懇ヲラ不ト為我カヲ竭ー田ヲ耕ヘーテ共ーンデ子ノ職ヲ為而已父母之我ヲ愛セ不我ニ於テ何ゾ哉

問於公明高曰舜往于田則吾既得聞命矣號泣于旻天于父母則吾不知也公明高曰是非爾所知也夫公明高以孝子之心爲不若是懇我竭力耕田共爲子職而已矣父母之不我愛於我何哉

万章曰子ノいう悪バたとへらるゝ御吾ニ論ヲゼに長息とらへらるゝ人ゝの師公明高ニ問ヒ舜ハ怨ニ慕ひ怨ーハらゝん公明高の曰く是爾の知べきこと非ズと有ー孟子批判ー舜の心をおしてもる今日孝子とる者ハ

親の悩慨ーをさゝるなり舜父母ニつくしてちうをを竭ーて田地を耕ーし子の職をつとむるに父母の我を愛ーざるハ何ゆへぞやいちず子たるの道をせばつゝしんで悔のみとなり

帝使其子九男二女百官牛羊倉廩備以事舜於畎畝之中天下之士多就之帝將胥天下而遷之焉爲不順於父母如窮人無所歸

帝其子九男二女百官牛羊倉廩を使備へて以て舜ヲ畎畝之中ニ事へ使天下之士之ヲ就者多ー帝將ニ天下を胥ー之を遷さんと將父母ニ順ならざるを為ニ窮人の歸ヲ不ざる所無ー如ー

天下之士之悅之人之所欲也
どさうなるぞ如くなり〳〵天下之士。悅之人之所欲。妻帝之
二女。而不足以解憂。好色人之所欲。妻帝之
天下。而不足以解憂。富人之所欲。貴爲
天子。而不足以解憂。貴人之所欲。富有
無足以解憂者。惟順於父母。可以解
憂　天下の士の悅ぶ人の欲する所の妻帝の二女を妻として憂を解く足らず好色人の欲する所の富貴を有つて憂を解く足らず富人の欲する所の貴天子を爲して憂を解く足らず貴人の欲する所の富有天下を有つて憂を解く足らず惟父母に順ふ事を盡して憂を解可し

人之悅之人之欲　吾孫ひのかるひハ吾孫ひのかるひ
耀を得て中〳〵憂と解ふなるべくもぐ色と富と貴となろうもろうろん后妃と妻と
解ふなるべくもぐ色と富と貴となろうもろうろん后妃と妻と
ハ則ち少艾を慕ふ好色を知ハ則ち妻子を慕ふ仕ふるハ則ち君を慕ふ君を得不ハ則ち中ふ熱ふ大孝ハ身を終るまで父母を慕ふ者ハ五十ふて慕ふ者予大舜ふ於てこれを見る。

萬章問て曰く詩云く妻を娶るハ如何ぞ必らず父母を

解ふなるべくもぐ色と富と貴となろうもろうろん后妃と妻と
ハ則ち少艾を慕ふ好色を知ハ則ち妻子を慕ふ仕ふるハ則ち君を慕ふ君を得不ハ則ち中ふ熱ふ大孝ハ身を終るまで父母を慕ふ者ハ五十ふて慕ふ者予大舜ふ於てこれを見る。

萬章問て曰く詩云く妻を娶るハ如何ぞ必らず父母

少艾。有妻子則慕妻子。仕則慕君。不得
於君則熱中。大孝。終身慕父母。五十而
慕者。予於大舜見之矣　人幼少なる時ハ父母
色を好ふて〳〵女の少艾をもとめ妻子をたり
てハもろ〳〵妻子をもとめふ仕官ふ就てハ君の意ニ唯
心中熱ふとぞもなるべくもぐ君の心ニそのる意得らざる時ハ
のことをもとめふ右者年五十ふて猶父母を慕ふひ
ハ舜帝一人のみにおり〳〵

○萬章問曰詩云娶妻如之何必告父
母信斯言也宜莫如舜舜之不告而娶

小告斯言を信まこと宜しく舜の如く莫る宜し舜告不して娶る何ぞ孟子の曰告ハ則ち娶を得不男女室ふ居ハ人之大倫也如告ハ則ち人之大倫を廢るに以て父母を懟是を以て告不を知る也

萬章曰く舜の嘗て娶ハ則ち吾既命を聞を得ざる帝之舜に妻あして告不ハ何ぞ曰く帝亦告不ハ則ち妻を得不を知る也

何也孟子曰告則不得娶男女居室人之大倫也如告則廢人之大倫以懟父母是以不告也萬章の問ふ詩經の詞に妻を娶ハ如何御ふ男女婚姻をことの夫婦必ず父母に告奉ハ舜の告ハざることハ人間の礼に於て大なる倫ちふ必ず娶ことを得ざるべしとあり斯言を信ぜる時室に備ふるとハ人間の礼に於て大なる倫ちふ必ず娶ことを得ざるべし告ハざるとハ父母を懟ることハ舜元より孤ざるハ是ことを廢ることなふ

萬章曰舜之不告而娶則吾既得聞命矣帝之舜而不告何也曰帝亦知告ハ則ち不得妻也萬章又曰く舜の告ハざるハ何ぞ帝も又其事をつぶさに御告ざるや曰く帝亦舜の告ハざることを知ぬ先生の御命に順ふ萬章曰父母使舜完廩捐階瞽瞍焚廩使浚井出舜往浚井旋捨去瞽瞍從而揜之象曰謨蓋都君咸我績牛羊父母倉廩父母干戈朕琴朕弤朕二嫂使治朕棲象往入舜宮舜在牀琴象曰鬱陶思君爾忸怩舜曰惟茲臣庶汝其于予治不識舜不知象之將殺己與曰奚而不知也象憂亦憂象喜亦喜

萬章曰く父母舜を使廩を完め使階より瞽瞍廩を焚井を浚ふせ使出從うて之を揜ふ象曰く都君を蓋こと謨る咸我績を牛羊ハ父母倉廩ハ父母干戈ハ朕琴ハ朕弤ハ朕二嫂ハ朕棲を治め使ん象往て舜の宮に入舜牀に在て琴を象曰鬱陶とうそ君を思ふ耳と忸怩舜の曰く惟茲臣庶

庶幾ら其子ふ手て治む識不舜象將ふ己をを殺こんく將を知不與曰美ぞ知ら不ん象憂ふこも亦憂へ象喜も亦甚こぶ

よ上るやう井を撤て廩よ火をつけて焚こう後まゝ井の中へ入をこそ土をむ井の中へ入をこそ土を撥おとしく舜象將の日く焚こと仕揖ドこまでく井を蓋ひつがー揖おとしく舜象の日く焚こと仕揖ドこまでく井を蓋ひつがー

日然らバ則ち舜偽うて甚者與曰否昔こ生る魚を鄭の子産小饋ること有子産校人を使之を池小畜あ

うハ我績うまく種バ牛羊と倉廩とハ父母の奥ん干戈こ琴と弧とハ朕こ妻と治めきめんとて舜の宮中こいさう見バ絃よ、早ー帰て牀よ君うひ琴を彈ドおりく象おこうさ日ふハ

偽喜者與曰否昔有饋生魚於鄭子

憂ふひ喜ことたもまゝ績悦うまうやく兄弟のむつまじきこと常人よ異なう

曰然則舜

君を志ふハーく長ひてあろう鬱陶てたのーと是ハ已こと天下の蒸庶くの臣民おうりそ恒悦ふ多舜のこまひる

子産使校人畜之池校人享烹之反命

冷ようく汝もまゝ予ふ代てつゝそ治むべーと是ハ已こと害ちんとまうさを知さるりのうやくの御ふ器の憂ふ時ハ

曰始舍之圉圉焉少則洋洋焉攸然而逝子産曰得其所哉得其所哉校人出

曰孰謂子產智予既烹而食之曰得其所哉得其所哉故君子可欺以其方難罔以非其道彼以愛兒之道來故誠信而喜之奚偽焉

校人之を烹反命して曰く始之を舍つゝ圉圉焉少則洋洋焉攸然而逝子産曰く其所を得さる哉其所を得さる哉校人出て曰孰謂子産智ありと謂予既に烹て之を食をを曰く其所を得さる哉其所を得さる哉故ふ以へふ君子ハ欺むくふ其方を以ま可罔るふ其道ヲ非ざるを以て難

鄭の太夫子産ふ生る鮮校人ふ命じて池よ畜ハーむもつるに校人烹おもを食ーて子産に死命て曰くるの臭を舍つゝハーくるにらゞめのちと八臆をこんへーて閑圉焉なうーう火ぐ而喜之奚偽焉　邪章曰く然ることこさハ偽喜びーりのこや御ふ吾昔者

彼兄を愛こまる之の道を以て來る故かゆへ小誠こころ信じこと之を喜こぶ多夫んこ偽こころん萬章問て曰く象日ひ々殺すを事を以を珍こと之を放と有庳之人の罪のある仁人固より是の如き乎他人ハ在てハ則いち之を誅す一弟ハ在てハ則いち之を封ず或ハ曰く放と万章曰く舜共工を幽に流し驩兜を崇山に放ち三苗を三危に殺し鯀を羽山に殛せ四罪して天下咸服を不仁き誅する也象至て不仁き之を有庳に封ず有庳之人奚罪焉仁人固如是乎在他人則誅之在弟則封之曰仁人之於弟也不藏怒焉不宿怨焉親愛之而已矣親之欲其貴也愛之欲其富也封之有庳

為弟匹夫而為之兄親愛之而已謂可乎

敢問或人之謂曰舜不得於君而反諸身不得於親而反諸身我竭力耕田共為子職而已矣父母之不我愛於我何哉

萬章問曰或人之謂曰舜不得於君而反諸身不得於親而反諸身我竭力耕田共為子職而已矣父母之不我愛於我何哉

孟子曰長息問於曾子曰舜之於父母可謂孝矣我竭力耕田共為子職而已矣父母之不我愛於我何哉曾子曰是惡言也是何言與是何言與

孟子曰長息問於曾子曰舜之於父母可謂孝矣我竭力耕田共為子職而已矣父母之不我愛於我何哉曾子曰是惡言也是何言與是何言與

長息以告公明高公明高曰以曾子為必知堯舜之道與

長息以告公明高公明高曰以曾子為必知堯舜之道與

曰子以是為非與

曰子以是為非與

曰非也非也

曰非也非也

公明高以孝子之心為不若是恝我竭力耕田共為子職而已矣父母之不我愛於我何哉

公明高以孝子之心為不若是恝我竭力耕田共為子職而已矣父母之不我愛於我何哉

曰以我觀於子之謂也

曰以我觀於子之謂也

帝使其子九男二女百官牛羊倉廩備以事舜於畎畝之中天下之士多就之而往者帝將胥天下而遷之焉為其source也

帝使其子九男二女百官牛羊倉廩備以事舜於畎畝之中天下之士多就之而往者帝將胥天下而遷之焉為其source也

大舜有大焉者有人之道也

大舜有大焉者有人之道也

人少則慕父母人知好色則慕少艾有妻子則慕妻子仕則慕君不得於君則熱中

人少則慕父母人知好色則慕少艾有妻子則慕妻子仕則慕君不得於君則熱中

大孝終身慕父母五十而慕者予於大舜見之矣

大孝終身慕父母五十而慕者予於大舜見之矣

萬章問曰

也堯老而舜攝也堯典曰二十有八載放勳乃徂落百姓如喪考妣三年四海遏密八音孔子曰天無二日民無二王舜既爲天子矣又帥天下諸侯以爲堯三年喪是二天子矣御門ニ減仕蒙問テ曰ク古語ニ德ノ盛アル君ハ

咸丘蒙曰舜尭之臣ニシテ不ンハ則チ吾既ニ聞ヲ得ヨウ詩ヲ云ク普天之下王土ニ非ザル莫率土之濱王臣ニ非ザル莫而ニシテ舜既ニ天子ト為リ敢テ問瞽瞍之臣ヲ非ザル如何

咸丘蒙曰舜尭之不臣則吾既得聞命矣詩云普天之下莫非王土率土之濱莫非王臣而舜既爲天子矣敢問瞽瞍之非臣如何

の尭典の文ニ曰ク堯の攝政ニ在ル事二十八載ニシテ帝徂落シ百姓ニ考妣の喪中のごとくニ哀ミ又八音ハ金石糸竹の類ニシテ樂ノ器ナリ

天下の諸侯ヲ帥テ喪ヲ服スル時天子ニシテ二人の天子ト謂ヘバ一ハ自然ニ過密ナル聖人の御語ニシテ民ニハ二人の帝モ無シ一ハ尭帝ヲ指ス舜ノ前年ニ老ヒテ舜ニ政道ヲ攝ラセ書經ノ

八音ハ金石糸竹の類ニシテ樂ノ器ナリ

又問テ曰ク堯の臣ニシテ堯の命ハ聞ヲ得ヨウ詩の辭ニ天下普ク王の土地ニシテ率土の濱ニ處ナラザル莫シトアリ舜天子ト為リ瞽瞍も臣ニ非ザル謂

曰く是詩ハ是之謂ふ非ざる事ふ勞して父母を養ふを得不也曰く此王事ふ非ざるを莫我獨賢勞也と故ゆへ詩を説者の文を以て辭ハを害せ不辭をふて志ざしを逆ふ是之を得ふうと為如辭ハ已を以てせハ雲漢之詩ふ曰く周餘の黎民孑遺有て靡斯言を信せハ是周ふ遺民無からるしとや

於王事而不得養父母也是詩也非是之謂也勞事我獨賢勞也故說詩者不以文害辭不以辭害志以意逆志是爲得之如以辭而已矣雲漢之詩曰周餘黎民靡有孑遺信斯言也是周無遺民也

御答是詩の謂こゝてハあゝまで是の詩ハ幽王の命をうけて役事出年を經て父母の孝養ふ暇なき意をのべ一篇の作者の心ハ天下まべて王臣の事こゝめうふいくのふらの我のみを賢なうとして苦労せしめうふ意をのべ一篇の義なうふの故ゆへ詩を説ふの法ハ一字の文を以て一句の詞を害べうふ又辭のふハべうふ聞こゝろえて作者の志ざしを逆ふの意を以て作者の心ハ天下まべて王臣の事こゝめうふいくのふらの我のみを賢なうとして苦労せしめうふ意をのべ一篇の義なうふの故ゆへ詩を説ふの法ハ一字の文を以て一句の詞を害べうふ又辭のふハべうふ聞こゝろえて作者の志ざしを逆ふの意を以て作者の心ハ天下まべて王臣の事こゝめうふいくのふらの我のみを賢なうとして苦労せしめうふ意をのべ一篇の義なうふの故ゆへ詩を説ふの法ハ一字の文を以て一句の詞を害べうふ又辭のふハべうふ聞こゝろえて

至莫天乎尊親尊親之至莫大乎以天下養爲天子父尊之至也以天下養養之至也詩曰永言孝思孝思維則此之謂也

至極の孝行ハ親を尊ふ養なうふの至こゝて薬きの至なうふ大義とて天下を以て養ふ天子の父となるハ養なうふの至こゝて此ふ之謂なうべし書曰祇載見瞽瞍夔夔齊慄瞽瞍亦

孝子之至りハ親を尊ふうふ大ひなるハ莫親を尊ふの至りハ天下を以て養ふ大ひなるハ莫天子の父為ハ尊ふの至り也天下を以て養ふハ之至り也詩ふ曰く永く言ふ孝を思ふて維則くる此之謂也書ふ曰く載を祗

子也書の語ハ学ん大小となく常に載を抵し深く身
夔夔斉栗心を夔夔斉栗にもあて行ふひくを云ふ瞽
瞽も亦允し若くハ是父得て
子とせずと為
舜章曰く堯天下を以て舜に與ふ
ること人の與ること能ハ
ざるなり
○萬章曰堯以天下與舜有諸孟子
曰否天子不能以天下與人
萬章の問ふ堯天下を舜
に與ふるハ有ることや御答曰のし天下の民の
帰する徳ありてその人の大下なり天子こいにども
よ人に與る
然則舜有天下也孰與之
天子ハ如何御答天
曰天與之
又萬章の問なり
天よう與ふるとハ
言以行與事示之而已矣
天よう諄諄然く命ずるとやう御答ふて否を天道
元よう人の如くものの言よハあらざるをたゞ舜
の事を詢て我身の行ひ舜を貴ぶこと天道の意にうつ
ふ事ともの意を万民よりめのうち
曰以行與事示之者如之何曰天子能
薦人於天不能使天與之天下諸侯能
薦人於天子不能使天子與之諸侯大
夫能薦人於諸侯不能使諸侯與之大
夫
又萬章の問
ハ如何御答天
其行と事とを
もの人をと思召ときハ人を天地神
明に我祖宗よ薦むるものをさぐる天よ強て天下をあらふる事
能ハざるたとくバ諸侯よう國家を治る主知の人をもて天子へ
て之が命ずる乎曰
く否天言ハ不行な
ひと事與を以て
之を示すのみ
曰く行ひと事
與を以て之を示す
者之を如何曰く天
子能人を天が薦む
天を使之が天下を
與ふること能ハ
諸侯能人を天子が
薦天子を使之が
諸侯を與ふること能
ハ不大夫能人を諸
侯が薦む諸侯を使
之が大夫を與ふる
能ハ不

薦め奏せ中く天子へ強ひ諸侯の位をあさつてもるとく
いふべからず大夫ようの賢者を諸侯へ薦むるも同じ理なり

昔者堯薦舜於天而天受之暴之於民而民受之故曰天不言以行與事示之而已矣

舜の大徳なる八元ようの大人ともにたすけ
天下の民ふ暴ハくをなすの故に天下の
天より行ひと事とを示すのみ

曰敢問薦之於天而天受之暴之於民而民受之如何曰使之主祭而百神享之是天受之使之主事而事治百姓安之是民受之也天與之人與之故曰天子不能以天下與人

又万章の問なり天の受ひ民の受ひとの理如何御答舜帝司主て神明を祭ふハ百くの神明之を享て神明のくやなう是天受るふの政務をあづうるハ万事治まりて百姓安堵なん是ぶ民の受ひなう天子とらへくる誠よ天下を自由しうあと能ハざるなり天與へ万民與へとんこれなり天子とらへくる誠よ天下を自由しうあと能ハざるなり

舜相堯二十有八載非人之所能爲也天也堯崩三年之喪畢舜避堯之子於南河之南天下諸侯朝覲者不之堯之子而之舜訟獄者不之堯之子而之舜謳歌者不謳歌堯之子而謳歌舜故曰天也夫然後之中國踐天子位焉而居

姓之を安んぜ是民之を受也天之と與へ人之よ與故ふ曰く天子天下を以て人ふ與ふること能ハ

舜堯ふ相ふること二十有八載人之能為所ふ非ず天也

堯崩じて三年之喪畢る舜堯之子ふ南河之南ふ避る天下の諸侯朝覲を
る者堯之子ふ之不ーして舜ふ之訟獄を
る者堯之子ふ之不ーして舜ふ之謳歌を
る者堯之子ふ之ゆ謳歌

也不一舜を謳歌する故也ふ曰く天也夫然りて後ふ中國ふ之て天子の位を踐而一堯之宮ふ居堯之子ふ逼ふ是篡也非天與ふ非ふ

大誓ふ曰く天の視ハ我民の視ふ自が聽ハ我民の聽ふ自が此之を謂也

萬章問て曰く人言有諺ふ至て

德衰へ賢ふ傳へ不して子ふ傳ふ有諸孟子の曰否然ら不天賢ふ與ふれバ則ハち賢ふ與へ天子ふ與ふれバ則ち子ふ與ふ

昔一舜禹を天ふ薦ること十七年舜崩じて三年之喪畢る禹舜之子ふ陽城ふ避る天下之民之ふ從ふこと堯崩る之後堯之子ふ從ざバ不して而して舜ふ從が若一禹益を天ふ薦むること七年禹崩じ三年之

堯之宮逼堯之子是篡也非天與也

舜の堯帝を相て政事ふ二十八年人の及べるぬ所ろ堯帝崩御三年の喪おりて舜自ら遠慮ありて太子丹朱を避て南河の南ふ住給ふに天下の諸侯伯來朝ありて覲礼をつくさるの舜の方へ之あらバ公事訟獄もるうりのなうび一御世のことをうたへうろび謳歌之もの太子丹朱の方へ之もの運數舜ふさだまるうりのなう然後中國ふ之て位を踐ふ舜一堯帝の宮中ふ居て太子丹朱を逼ふるうりのなう天の運數ふらふりのう非ざる

天聽自我民聽此之謂也

書經太誓の詞ふ曰く天數の事ハ固ふ知なう人知て窺ひ測べき形あらバこそ万民の心をいて知なう民百姓の視聽ところふ能ふ天道ふ誠此謂なう

萬章問曰人有言至於禹而德衰不

傳於賢而傳於子有諸孟子曰否不然

万章の問なう禹王ふらうて賢德の人ふ位を讓の例やんで子ふろうく故なう御答否

也天與賢則與賢天與子則與子

昔者舜薦

禹於天十有七年舜崩三年之喪畢禹

避舜之子於陽城天下之民從之若堯

崩之後不從堯之子而從舜也禹薦益

於天七年禹崩三年之喪畢益避禹之

於箕山之陰朝覲訟獄者不之益而

之啓曰吾君之子也謳歌者不謳歌益而謳歌啓曰吾君之子也昔者舜薦禹于天十七年崩三年之喪畢禹避舜之子于陽城天下諸侯皆朝于禹王崩禹之子賢可以繼禹之道益之相禹也歷年少施澤於民未久舜禹益相去久遠其子之賢不肖皆天也非人之所能爲也莫之爲而爲者天也莫之致而至者命也匹夫而有天下者德必若舜禹而又有天子薦之者故仲尼不有天下

丹朱之不肖舜之子亦不肖舜之相堯子也相去久遠天也禹益相舜歷年多施澤於民久啓賢能敬承繼禹之道益之相禹也歷年少施澤於民未久舜禹益相去久遠其子之賢不肖皆天也人之能爲所非之而爲之莫之致而至者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

禹益相去久遠其子之賢不肖皆天也人之能爲所非之而爲之莫之致而至者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

有故而天子薦之者天也天子之薦而又有天下者命也匹夫而有天下者必積德累仁厚而天子薦之者也仲尼不有天下

經典餘師　孟子三　二百十四

世を継で天下を有つハ天之廢する所必らず桀紂の若き者也故ゆゑに益伊尹周公ハ天下を有ゝ

あゝて用ひ萬ゆるの故ゝ孔夫子ハ繼世而大聖の德あるゆゑ天下と有つゝ

有天下天之所廢必若桀紂者也故益伊尹周公不有天下

世ゝとゝけ継ゝ天ゝたゝへバ大甲成王ゟ次なゝ天子

伊尹湯を相て以て天下ゟ王ゝ湯崩じて太丁未ゞ立未タ丙二年仲壬四年太甲

らゝゞる天下を有ゝゆゑ天ゝうゝ之を廢ゝゆゑ右の理と以てその間ゝ伊尹周公の

如き大賢あゝバ天下を有ゝなゝ

伊尹相湯以王於天下湯崩太丁未立外丙二年仲壬四年太甲

悪業紂のごくあゝて始て

顛覆湯之典刑伊尹放之於桐三年太甲悔過自艾於桐處仁遷義三年

甲悔過自怨自艾於桐處仁遷義三年以聽伊尹之訓已也復歸于亳

伊尹ハ湯王を

年以て伊尹ゞ已ゝ相て王となゝ崩御の後太子の太丁を位ゝ立ゝゑのゝバゝ

ゟ訓ゆるゝを聽毫ゝて死去なゝ継て

ゟ復歸を

の太子太甲をゝゝひ湯王の典刑を顛覆のひゝバ伊尹

之を戒て桐とゝゝる処へ放ち置ゝゝと三年なゝ太甲つゝひゝ

伊尹のおゝへよゝさゝひ過失を悔ゝ身を怨ゝゝ自ゝゝ

悪まゝとゝひ艾て仁義の道ゝ遷ゝゝ伊尹の訓を聽ゝゝと

得ゝゝ依て復び亳ゝ帰ゝゝ

周公之不有天下猶益之於殷也

周公のごく大賢なゝも天下を有ざゝゝ子細ハ已ゟ

論ぜゞごく益の夏ゟつゝへゝも伊尹の殷ゝつゝへゝも同じ訳ゝそ

天下を有ゝのなゝゝ

孔子曰唐虞禪夏后殷周繼其義一也

孔子

ひて唐堯の虞舜ゝゆづりゝゝ大古の風義も夏殷周の父子世をつゝへゝゝも義理一体なゝゝと仰ゝゝ

萬章問曰人有言伊尹以割享湯

萬章問て曰く人言ゝるゝ有伊尹割烹を以て湯を要む有

孔子曰ゝく唐虞禪リ夏后殷周ハ繼其義一也

萬章問て曰く人言

周公之天下を有さゝ不ハ猶益之夏ゟ於ゝ伊尹之殷ゟ於ゝ猶一

有諸万章の問なり伊尹は名を割烹に役うめしと出ん之此事あり
孟子曰否不然伊尹耕於有莘之野而
樂堯舜之道焉非其義也非其道也祿
之以天下弗顧也繫馬千駟弗視也非
其義也非其道也一介不以與人一介
不以取諸人
野は隠者となりて世をのがれ堯舜の道を樂しむを若ん哉
湯三使往聘之既而幡然改曰與我處
畎畝之中由是以樂堯舜之道吾豈若
使是君爲堯舜之君哉吾豈若使是民
爲堯舜之民哉吾豈若於吾身親見之

諸
孟子の曰く否然らず伊尹有莘之野に耕へて堯舜の道を樂む其義に非ず其道に非ざれば之を祿するに天下を以てするも顧みず繫馬千駟も視ず其義に非ず其道に非ざれば一介も以て人に與へず一介も以て諸を人に取らず
湯人を使て之が幣聘を置置然として我何ぞ湯の聘幣を以て為んや我豈
然曰我何以湯之聘幣爲哉我豈若處
畎畝之中由是以樂堯舜之道哉伊尹の
賢德あるを聞て召んと欲し人を聘して召ふ介節をこうべきにあらず堯舜の道を樂むよまこと
湯王の幣聘のことあるの中より隠居して堯舜
湯三使往聘之既而幡然改曰與我處
畎畝之中由是以樂堯舜之道吾豈若
使是君爲堯舜之君哉吾豈若使是民
爲堯舜之民哉吾豈若於吾身親見之
三たび聘をつくしあゝつゝしめて改めて曰く我畎畝之中に處て是に由て堯舜之道を樂しむよ若ん哉
湯三たび往て之を聘せ使既ふして幡然と改めて曰く我畎畝之中に處て是に由て堯舜之道を樂んで與吾豈是君を使て堯舜之君と爲ん若ん哉吾豈是民を使て堯舜之民と爲ん若ん哉吾豈

君之事て竟舜の如くなさ〳〵めて民を治て竟舜の御代のごとくせいく〳〵直に之を目に見るとの樂こゝいふ討ま〳〵

天之生此民也使先知覺後知使先覺覺後覺也予天民之先覺者也非予覺之而誰也（其旨天之）

斯道覺斯民也非予將以斯道覺此民而誰覺を覺と予ハ天民之先覺と者也予將ふ斯道を以て斯民を覺さんと將予ずこれを覺ふ非ずして

思天下之民匹夫匹婦有不被堯舜之澤者（下）

匹婦竟舜之澤を被不者有已ま推て之を溝中ふ内ふ若し其自任ふろふ天下之重さを以てもろ

己推而內之溝中其自任以天下之重如此故就湯而說之以伐夏救民（伊尹右の如く）

覺べきのなり　もろの民を覺ぶ〳〵て夕ゝ誰あるべ〳〵ともやハを

思天下之民匹夫匹婦有不被堯舜之澤者

己推而內之溝中其自任以天下之重

如此故就湯而說之以伐夏救民

此の如く故ふ湯ふ就て之を說以く夏を伐民を救ふ

吾未ざ已まを杜て人を正も者と聞未況んや已れを辱ふして以て天下を正ふ者乎聖人之行ひ同〳〵ら不或ハ遠く或ハ近く或ハ去或ハ去不其身を潔ふろふ歸ふ已吾其堯舜之道を以て湯を要むを聞未ざ割烹を以てふると聞未

吾未ざ已まを杜て人を正も者と聞未況んや已れを辱ふして以て天下を正ふ者乎聖人之行不同

也或遠或近或去或不去歸潔其身而已矣吾聞其以堯舜之道要湯未聞以割烹也

吾未ざ已ま身の行ふひ或ハ遠く身をかゝ〳〵ものあらむ聖人の身の行ふひ或ハ遠く或ハ近く君ふろふ去ふくなふ何ゝ

潔なんのなく伊尹の堯舜の道を以て湯王ふ要つゝしとハ右のごくなふいちゝ割烹の役を

伊訓曰天誅造攻自牧宮朕
載自亳書經の伊訓の詞なり曰く天より憂の代
て攻る牧宮自ら朕亳自載む
萬章問て曰く或
ひと謂く孔子衛ふ
於て癰疽を主とせ
齊ふ於て侍人瘠環
を主とせ諸有乎
孟子の曰く否然ら
不事を好む者之を
為り
衛ふ於てハ顔讐由
を主とせ彌子之妻

○萬章問曰或謂孔子於衛主癰疽於
齊主侍人瘠環有諸乎孟子曰否不然
也好事者為之也乃章の問なり或ひとのいう
湯ゝ仰ふ朕亳
つて事をゝ載とあり
○癰疽の一医官と相住居
瘠環とゝもの方ゝ
ゝ君ゝなるを迎ゝ
御ん苔くれハ好事とて
於衛主顔讐由彌子之妻與子路之妻
兄弟也彌子謂子路曰孔子主我衛卿
可得也子路以告孔子曰有命孔子進
以禮退以義得之不得曰有命而主癰
疽與侍人瘠環是無義無命也右ゝなり
聖人衛ふて賢人の大夫ふ顔讐由又ハ
蘧伯玉なゞくいつもその家ふ居るの
君の嬖幸の臣ふ彌子とい
兄なりゝちゝ子路ふ謂ふ
卿大夫の位を得りんこ
天命とい
りのあり
退ぞゝ
聖人の身ハ進ゝ
義ふゝ
得ると得ざるハ天命あり
侍人等ゞ家ふ居うふ時ハ
孔子魯衛を悦ゝ
不宋の桓司馬將ふ
八子路之妻與兄弟
也彌子子路ふ謂て
曰く孔子我を主と
せハ衛卿得可也子
路ふて告孔子曰ゝ
命有孔子進む礼
をゝ以てゝ之を
義を以てゝ之を得
と得不と命有と
曰癰疽と侍人瘠
環與を主とせバ是
義無命無也

要して之を殺さんと將に微服して宋を過ぎんとす是時孔子陳に在るや當る司城貞子を以て陳侯周の臣と為し

亂聞近臣を觀て其主為所を以てし遠臣を觀て其主とする所をしる若孔子癰疽と侍人瘠環とを主とせバ何を以て孔子と為さん

悅於魯衛遭宋桓司馬將要而殺之。微服而過宋是時孔子當陀主司城貞子爲陳侯周臣

聖人曽と衛とを擇ぶ事なくして陳の侯の名と家を擇ぶ事あらんや

微の地を過ぐるに當りて悅ばざるの時も亂離の時に出あひ

家の人ごとくなるべし

家ごとの人ごとくなるべし

周ハ陳の侯の名

吾聞觀近臣以其所主著孔子主癰疽與侍人瘠環何以爲孔子

近臣とハ臣下の善惡をとるに觀ることハその人ごとくなるをもとめて身を留むる家の主人をとりて

何ぞもその交りて友をとるべきの人ごとくなるをもとめて

萬章問て曰く或ひとの曰く百里奚自ら秦の牲を養なふ者ゟ五羊之皮を鬻南で牛を食て以て秦の穆公ニ要む信ゟ乎

孟子の曰く否然不事を好む者之を爲百里奚ハ虞人也晉人垂棘之璧と屈產之乘與を以て道を虞ゟ假て以て虢を伐宮之奇ハ諫む百里奚ハ諫め不

○萬章問曰或曰百里奚自鬻於秦養牲者五羊之皮食牛以要秦穆公信乎

石章の問なり或ひと曰ふ古への賢人百里奚より取物秦の穆公ゟ事し一時の由縁より秦の君ゟ要つるにハまづ犧牲をやなふ官人ごとくその羊の皮を鬻てとりさし一牛を食ふなるべし

孟子曰否不然好事者爲之也百里奚虞人也晉人以垂棘之璧與屈產之乘假道於虞以伐虢宮之奇諫百里奚不

諫ゟ禦られちゝ好事の人の爲なり百里奚ハ虞の君ゟ仕へ一人なりその時晉の國ゟ虢の國ゟ伐

虞公之諫むる可うく不を知て忝て秦ホ之年已ホ七十曽て牛を食ふを以て秦の穆公を干むるの汗きこと為を知不ハ智と謂可けん乎諫むる可不して諫め不不智と謂可乎虞公之将小亡びんと将を知て先之を忝不知と謂可らう不時ホ秦ホ禦られ寇ホ之與ホ行なよそ有可を知て之を相く不智と謂可けん乎秦を相けて其君を天下ホ顯ハ後世ホ傳ふる可不賢ホして之を能ヒん乎

自うら斁そ以て其君を成郷黨の自うら好まる者為不而て賢者之を為と謂ん乎

萬章章句下

孟子の曰く伯夷ハ目ホ不悪色を視不耳ホ不悪聲を聽不其君を而能之乎

右虞公の諫やうきを知て當をこと去ること其年已ニ七十ホおうぶをこの年の亡ぶさをさるを見ゆるど汗こきこと秦の穆公ホつうくへて與ハ一相て君を天下ホ顯ハし後の世ホでも傳うると全く不賢なるハ能ヒきなう

自斁南以成其君郷黨自好者不為而謂賢者為之乎

たとへバ五羊を鬻てその君一相謚史こハ一郷憲ふとおりんど好まるそもを為と恥て而ま賢者の身うえを所為くハ謂べうきを

萬章章句下

孟子曰伯夷目不視惡色耳不聽惡聲

非其君不事非其民不使治則進亂則退橫政之所出橫民之所止不忍居也思與鄉人處如以朝衣朝冠坐於塗炭也當紂之時居北海之濱以待天下之清也故聞伯夷之風者頑夫廉懦夫有立志（惡を色を視ることを耳に惡を言を聞を君を立ること有）

伊尹曰何事非君何使非民治亦進亂亦進曰天之生斯民也使先知覺後知使先覺覺後覺予天民之先覺者也予將以此道覺此民也思天下之民匹夫匹婦有不與被堯舜之澤者若己推而內之溝中其自任以天下之重也（伊尹の前に出づ）柳下惠不羞汙君不辭小官進不隱賢必以其道遺佚而不怨阨窮而不憫與鄉人處由由然不忍去也爾爲爾我爲我雖袒裼裸

王濱集舍藏

王濱集舍藏

裸裎於我側爾焉能浼我哉故聞柳下惠之風者鄙夫寬薄夫敦（伯夷の風儀を聞くことを耳に惡を言を聞を君を立ることを有）

孟子曰仲尼不爲已甚者（伊尹曰何事非君何使非民治亦進亂亦進曰天之生斯民也使先知覺後知使先覺覺後覺予天民之先覺者也予將以此道覺此民也思天下之民匹夫匹婦有不與被堯舜之澤者若己推而內之溝中其自任以天下之重也柳下惠不羞汙君不辭小官進不隱賢必以其道遺佚而不怨阨窮而不憫與鄉人處由由然不忍去也爾爲爾我爲我雖袒裼裸裎於我側爾焉能浼我哉）

王濱集舍藏

程於我側爾焉能浼我哉故聞柳下惠之風者鄙夫寬薄夫敦（柳下惠ノ風儀ヲ聞ク人ハ心ヲ寛ク鄙キ人ノ薄キモ志シ敦厚ニ成ル）

接淅而行去魯曰遲遲吾行也去父母國之道也可以速而速可以久而久可以處而處可以仕而仕孔子也（聖人齊ノ國ヲ去ル道也以テ速ナル可シ久シ可シ處ル可シ仕ル可シ而テ速ニモ久ニモ處ニモ仕ニモ各其時ニ中スル者也孔子ハ聖之和ナル者也）

孟子曰伯夷聖之清者也（伯夷ハ聖之清ル者也）伊尹聖之任者也（伊尹ハ聖之任ル者也）柳下惠聖之和者也（柳下惠ハ聖之和ル者也）孔子聖之時者也（孟子批判ノ詞）

孔子之謂集大成（孔子之ヲ集メテ大成ス）集大成也者（集メ大成スト者）金聲而玉振之也（金聲ハ始ヲ振ル者也玉振ハ終ヲ成ス者也）金聲也者始條理也（金聲ヲ始ムルハ知ノ事也條理ヲ始ムルハ智之事也）玉振之也者終條理也（玉振ハ聖ノ事也條理ヲ終ルハ聖之事也）智之事也終條理者聖之事也（右ノ三ツハ樂器ノ内ニテ一ツノ音ノ如ク始終其ノ條理ヲ成就スルヲ一ツノ小キ成ス譬ヘタルニテ偏ナラス）

孔子之齊接淅而行（孔子之齊ヲ去ル淅ヲ接テ行ク事ヲ去テ曰ク遲遲吾行ク父母ノ國ヲ去之道也以テ速ナル可シ久シ可シ處ル可シ仕ル可シ而テ速ニモ久ニモ處ニモ仕ニモ各其時ニ中スル者也孔子ハ聖之時ナル者也）

之事ヲ

智ハ譬ヘバ則チ巧ク也聖ハ譬ヘバ則チ力ラカラ百歩之外ヲ射ル由ル其至ル所ハ爾ガカラ也其中ル所ハ爾ガカラ非ズ

北宮錡問テ曰周室班爵祿之ヲ如何

孟子ノ曰ク其詳ナルコト聞クヲ得可ラズ不諸侯其已レヲ害モルヲ悪テ而シテ皆其籍ヲ去シテ軻嘗テ其ノ畧クヲ聞ケリ

天子一位公一位侯一位伯一位子男同ジ一位凡テ五等君一位卿一位大夫一位上士一位中士一位下士一位凡テ六等

今ノ聖人ハ楽一曲ノゴトク衆多ノ妙音集備リテ大ニ成就ヲ和楽器ノ中ニテ金石ヲ主トシ始ム鐘ヲ撃ナリ玉振トハ終ニ磬ヲ撃ナリ始ヨウ終ニ一ツニ其ノ条理ヲ貫ハメ条理トハ衆ノ条理ヲ云フ其ノ知者ノ知ヲ用ユルヲ射ルトキ矢ノ至ハ弓勢ノ力ナリ的ノ中ノ処ハ力ニ非ズ聖人ハ聖智ノ如何ヲ

智譬則巧也聖譬則力也由射於百歩之外也其至爾力也其中非爾力也

北宮錡問曰周室班爵祿也如之何

衛ノ人北宮錡ノ問ヒナリ当時ノ天下周ノ室ニシテ諸侯伯ノ官爵食祿ノ班ある其ノ例如何トナリ

孟子曰其詳不可得聞也諸侯悪其害己也而皆去其籍然而軻也嘗聞其略

御答ヘ其ノ詳ラカナルコトハ今時ハ諸侯各ノ土地ヲ切ラント知ラント欲シ細ク書ヲ籍ヲ廃テ用サラント欲シ依テ籍ヲ悪テ而シテ皆其ノ名ヲ書ヲ典ヲ及ヌ其ノ事左ノゴトクヲ畧クヲ聞ケリ

天子一位

公一位侯一位伯一位子男同一位凡テ五等

君一位卿一位大夫一位上士一位中士一位下士一位凡テ六等

天子之制地方千里公侯皆方百里伯七十里子男五十里凡四等不能五十里不達於天子附於諸侯曰附庸天子之卿受地視侯大夫受地視伯元士受地視子男大國地方百里君十卿祿卿祿四大夫大夫倍上士上士倍中士中士倍下士下士與庶人在官者同祿祿足以代其耕也次國地方七十里君十卿祿卿祿三大夫大夫倍上士上士倍中士中士倍下士下士與庶人在官者同祿祿足以代其耕也小國地方五十

天子之制地方千里公侯皆方百里伯七十里子男五十里凡四等不能五十里不達於天子附於諸侯曰附庸天子之卿受地視侯大夫受地視伯元士受地視子男大國地方百里君十卿祿卿祿四大夫大夫倍上士上士倍中士中士倍下士下士與庶人在官者同祿祿足以代其耕也次國地方七十里君十卿祿卿祿三大夫大夫倍上士上士倍中士中士倍下士下士與庶人在官者同祿祿足以代其耕也小國地方五十

天子之制ハ地方千里公侯ハ皆方百里伯ハ七十里子男ハ五十里凡て四等ニ五十里ニ不達ヲ不能天子ニ達セ不諸侯ニ附ル附庸と曰

天子之卿ハ地を受ル侯ニ視ろ大夫ハ地を受ル伯ニ視ろ元士ハ地を受ル子男ニ視ろ

大國ハ地方百里君ハ卿の祿を十ニも卿ハ大夫を四ニも大夫ハ上士ニ倍も上士ハ中士ニ倍も中士ハ下士ニ倍も下士と庶人の官ニ在者與祿と同きニも祿以て其耕をお代ル足

次國ハ地方七十里君ハ卿の祿ニ大夫ハ上士ニ倍も上士ハ中士ニ倍も中士ハ下士ニ倍も下士ハ庶人の官ニ在者與祿と同きニも祿以て其耕をお代ル足

大國の地ハ方百里四方合ニて領ル君の取ろお祿ハ卿の祿ニ十倍卿ハ大夫の祿ニ四ツ倍そろく大夫ハ上士に一倍ろ以下ハ君ニ付ろもニしるべし　下士の分限ハ庶人の官役ニ等きろ其の食祿大てハ農人一軒の田地とお耕耨とをして家内をやしなふにあろろ

次國地方七十里君十卿祿卿祿三大夫大夫倍上士上士倍中士中士倍下士下士與庶人在官者同祿祿足以代其耕也小國地方五十

里君十卿祿卿祿二大夫大夫倍上士上士倍中士中士倍下士下士與庶人在官者同祿祿足以代其耕也（もの文面をもって推してきっと）

耕者之所獲一夫百畝百畝之糞上農夫食九人上次食八人中食七人下食五人庶人在官者其祿以是爲差（農人の家一夫のうち獲て作る田地八百畝）

（夫八九人の家内をやしなうべし）その次八人中八七人その次八六人まもるその下なるものは八五人ぐらいをやしなうべし庶人の官をつとめ居りて食祿よ上下あるべきところなり）

（萬章問曰敢問友孟子曰不挾長不挾貴不挾兄弟而友友也者友其德也不可以有挾也（放章朋友の交りを問奉まつる御答友とは友とよき心なり聖人の德をたのみよき友まもりそこなわざる心なり）

我しそこなわざるようにめざす年長貴人なりとてそれに依て冠なりそれに乗をろうしめざす狹よのなきをろうしめざす年長貴人なりとてそれに依て冠なりそれに乗

孟獻子百乘之家也有友五人焉樂正裘牧仲其三人則予忘之矣獻子之與此五人者友也無獻子之家者也此五人者亦有獻子之家則不與之友矣

（孟獻子は魯の大夫百乘の家なりもろもろの平人の友五人ありその中まて樂正裘と牧仲と二人外三人は孟子も忘るる心まであり）

八人を食う庶人官に在者は其祿是を以て差と爲

（萬章問て曰く敢て友を問う孟子の曰く長を挾まず貴きを挾まず兄弟を挾まず而して友う友とは其德を友ともろう以て挾むて有可うず

孟獻子は百乘之家友五人有樂正裘牧中其三人は則ち予之を

忘る獻子此五人の者與友さう獻子之家無者なり此五人の者亦獻子之家有とセバ則公之と友さう不

惟百乘之家然と為ま非を小國の君と雖とも亦之有費の惠公の曰く吾子思ま於て則ハち之を師とそ吾顏般ま於てハ則ち之を友とを王順長息ハ則ハち我ま事る者也惟小國之君然と為ま非を大國の君と雖とも亦之有平日の平公之支唐ま於る入と云バ則ハち入坐と云バ則坐を食と云バ則ハち食も疏食菜羹と雖とも未嘗て飽不ばあら未嘗て敢て飽不あら不然ハ此ま終已與。

天位を共ま也弗與ま天職を治め弗與ま天祿を食セ弗士之賢者を尊ちぶちう王公之賢を尊ぶ

非惟百乘之家爲然也雖小國之君亦有之費惠公曰吾於子思則師之矣吾於顏般則友之矣王順長息則事我者也

右百乘の權門のみ然まろそかく小國の君うも其例あり費の國の君惠公の曰く吾子思をバ師と思ふかう顏般ハ友とふかう王順と長息ハ我ま事るの者ありとあうしかう非惟小國之君爲然也雖大國之君亦有之晉平公之於支唐也入云則入坐云則坐食云則食雖疏食菜羹未嘗不飽蓋不敢不飽也然終於此而已矣弗與共天位也弗與治天職也弗與食天祿也士之尊賢者也非王公之尊賢也

右小國のみふあ大國そへ晉の君平公ハ賢人支唐の差圖のやうに入坐とあれハその席へ入坐と迫ま坐一ふ食をもらふ時いつも食しまさぐ食る迫まのみうのみ敢て飽ちぶとそ支唐を重じのみうのみもちろん相終なが賢をうやまひ友ともしもてちう與ま國家の大事をくろま位職食祿を君ちうの人ハ天位天職とあらこの心ハまくて德を尊とま國家を治ぶく治法の事ハ賢人のあづうべきものへ君ま支ぶるものとハ人民をさみだりに賢人をうやまひ友とま諸士の交接のごくちうしかの風儀ハ賢人をうやまひ友とま中ぐ王公の實ま賢人をうやまふとうふのよハあ

舜尚見帝帝館甥于貳室亦

為ま非を大國の君と雖とも亦之有平日の平公之支唐ま於る入と云バ則ハち入坐と云バ則坐を食と云バ則ハち食も疏食菜羹と雖とも未嘗て飽不あら不然ハ此ま終已與。

天位を共ま也弗與ま天職を治め弗與ま天祿を食セ弗士之賢者を尊ちぶちう王公之賢を尊ぶ

已矣弗與共天位也弗與治天職也弗與食天祿也士之尊賢者也非王公之尊賢也

右小國のみふあ大國そへ晉の君平公ハ賢人支唐の差圖のやうに入坐とあれハその席へ入坐と迫ま坐一ふ食をもらふ時いつも食しまさぐ食る迫まのみうのみ敢て飽ちぶとそ支唐を重じのみうのみもちろん相終なが賢をうやまひ友ともしもてちう與ま國家の大事をくろま位職食祿を君ちうの人ハ天位天職とあらこの心ハまくて德を尊とま國家を治ぶく治法の事ハ賢人のあづうべきものへ君ま支ぶるものとハ人民をさみだりに賢人をうやまひ友とま諸士の交接のごくちうしかの風儀ハ賢人をうやまひ友とま中ぐ王公の實ま賢人をうやまふとうふのよハあ

舜尚見帝帝館甥于貳室亦

饗舜迭爲賓主是天子而友匹夫也

（堯帝賢德をうやまひて舜を尚とみ給ひて貳室に饗應あり迭に賓主人となりまふしあひ天子の重きを以て匹夫と友とするのうへ○妻のちかき者と列舅とを饗舜を婿とハまくくそれくくバなり）

用下敬上謂之貴貴用上敬下謂之尊貴

（下より目上をうやまふ人を敬礼を貴人を貴むといふなり）

貴貴尊賢其義一也

（いひ上くようにこうのと敬礼を貴人をうやまひ賢人をうやまふ義理ここも同断ここ）

○萬章問曰敢問交際何心也孟子曰恭也

（人の交接ま幣儀をもちゆハ本何のこころもなやを恭敬の心をあらハすなり賢人の方へ贈る品を進上もまたハ全く徳をなふとくに重きをおくこともみなこの義をあらハすなり）

曰卻之卻之爲不恭何哉曰尊者賜之曰其所取之者義乎不義乎而後受之以是爲不恭故弗卻也

（又問をうるに人より贈る品を返卻ハ何なる道理を御存ありてそのまゝ不恭なるこゝろおこりそれを取て義ならんやと云ふ）

曰請無以辭卻之以心卻之曰其取諸民之不義也而以辭卻之是以辭接之也以道接也以禮斯孔子受之矣

（不義にあらやとかうりこれをうけ不恭なりハ卻べきに辭謝辭ことハりを以て其品を卻べきに他の辭ことハりを以て受ることそ然ハその内こゝろあて他の辭ことハりを以て其諸と民

ら〻不可うんや御斁〻〻よものく物をとるに
ニ及ざるなり向方ハ道にかなふやうにして来ル礼法
のわろき贈りものなるゆへ陽貨が如き人なれども已ニ聖人もかゝり
おろそ来るゆへ受ても辞ニ恭敬をのべて菽ニ膝を
平ニ曰く其交るを以てし其接るに礼を以てせバ斯孔子も
之ことく受萬章曰く今之國門之外の禦ものゝ者有其交るに道
を以てし其餽るに礼を以てせバ斯禦ものを受可乎與曰く不可なり
康誥ニ曰く人を殺越人于貨閔不畏死凡民罔不讐是不待教而誅
之ハ殷周ニ受殷所不辞也於今為烈如之何其受之

又万章ニ云ふ所の人ハ悪人あつて國門の外ニ人なきたとへバ
処ニて財物をとりもつ者あるごとき義なるやうの道を以てうやまひ
貨らを殺越ニて来ると交接をなさバ受べからざるの理
閔そうして死を畏ざる不凡を民叢ニ来ると殺ニ鯨ニして身の死するとをおそれぬもの
罔是教へを待不ざる者なりの〻の民ハ諭ニ及バざるものゝて而ニて誅もる
者なり殷ハ夏に受周ハ殷ニ受ざるこの理ニ不所なり今ニ於
ヒ不所なり今ニ於て烈ニ為之を如何ぞ其之を受
曰く今之諸侯之民ニ取ハ禦もるぶ
猶ー苟ーくも其ニ礼際を善ニせバ斯君子之を受敢て
問何の説ぞ曰く子以為らく王者

賞らを殺越ニて来ると交接をなさバ受べからざるの理
閔そうして死を畏ざる不凡を民叢ニ来ると殺ニ鯨ニして身の死するとをおそれぬもの
罔是教へを待不ざる者なりの〻の民ハ諭ニ及バざるものゝて而ニて誅もる
者なり殷ハ夏に受周ハ殷ニ受ざるこの理ニ不所なり今ニ於
ヒ不所なり今之於て烈ニ為之を如何ぞ其之を受
曰く今之諸侯之民ニ取ハ禦もるぶ
猶ー苟ーくも其ニ礼際を善ニせバ斯君子之を受敢て
問何の説ぞ曰く子以為らく王者

書経康誥の篇の辞ニ曰く貨財を貪り人を
殺ー鯨ーして身の死するとをおそれぬもの民ハ諭
ざる者なりの〻の者ハ善悪の教戒ニ及バざるものゝて
誅をべーー中ーく義不の義を論ーー受ざる卻をなどの沙然
及バざるものなりをーー道ニよらざるの殷周の君天下をもち
て辞退なるゝも今ー人の烈となる然バ右國門の
賜ハ何ぞ受べきの理あんやとなり

曰今之諸侯取之於民也猶禦也苟善
其禮際矣斯君子受之敢問何説也曰
子以為有王者作將比今之諸侯而誅
之乎其教之不改而後誅之乎夫謂非
其有而取之者盗也充類至義之盡也

作ること有ハ將ニ今之諸侯ヲ比ベ之ヲ誅ちんと將乎其之ヲ教ヘて改めざれバ而後ニ之ヲ誅ちん乎夫其有ヲ非ざるヲ以て之ヲ取者ハ盜なりと謂ふの類ヲ充て義之盡るニ至る

孔子之魯ニ仕るや時の魯人獵較をもれバ孔子も亦獵較孔子之仕於魯也魯人獵較而況

聖人これをなさんとするその賜ものを受ざんや

曰然則孔子之仕

勝負を較ぶることなり聖人も亦ハ其風俗をあしくするの事をするに在うふ時の獵較なりふふうるふ礼なりで物をなんぞとるをしらん

又問ふ聖人の君ニ仕るふハ道理ニ何ぞ獵較をなしうるや

曰孔子先簿正祭器不以四方之食供簿正

御呑聖人の獵較なるニハ祭法を正しうするニ表ハ風俗をととのふ為ニて裏ハ祭品として供物の品ニ数の定なるをしめすなり祭器不以四方之食供簿正

祭礼をもつもつ簿書をととのふるの器物の数をさだめ常ニ土地ニ有ところのものを用ひそろふるなり今魯に在りのを用ひ外四方の地のものを用ひざるなり祭の器物の品を備ふるニ土地ニ有ところのものを用ひ外四方の地のものを用ひざるなり今魯に在りの禽獣多くして弊あり故ニ

曰然則孔子之仕

曰く然バ則ち孔子之仕るハ道を事とするに非ざる與曰く道を事とするを道を事として奚ぞ獵較をいふ孔子先簿をととのへて祭器を正しくし四方之食をいれて簿正ニ供セ不

曰く奚ぞ去不曰之兆を為兆以て行なふよ足行ふを不して而して後ち去是を以て未だ嘗て三年を終ふく淹まる所有未

孔子行可を見の仕有除可之仕へ有公養之仕へ有季桓子よ於てハ行可を見の仕へなう衛の霊公よ於てハ除可の仕へなう衛の孝公よ於てハ公養之仕へ

のちハその益なるとハ云ふまじきことを思ひて召てなう

兆也兆足以行矣而不行而後去是以未嘗有所終三年淹也（一ク章又曰ク聖人ハ奚ぞ曲ひ心を用ひ

ふまじきことを正しく道の行ハるゝなう奚ぞ去るの八ざるの御器聖人固より世をまくひ民をとゝ生へふ

切ることバいつふもして道を行んことを欲ふより也行なふべきぐるが沙へくもまふ是故よ

三年を毎事よ淹留るひ一國あるし

孔子有見行可之仕有除可之仕有公養之仕於季桓子見行可之仕也於衛霊公除可之仕也於衛孝公公養之仕也（聖人の身を其國よ

なう

孟子の曰く仕ふハ貧ひさが為よ非を時有て貧ひさが為よ非を妻を娶るハ養なひの為よ非を時有て養なふが為よ

貧ひさが為よ非を尊とを辞ひて卑ひさみ

とゞめなふよ三の品あり見なふときあり魯小居なふ李桓子のときかくの如くまさ際可之仕よて聖人衛の霊公よ在してハ交際の間礼の行ハるべやとなう

その國の君なう賢人を養なひうことあり衛の孝公よ君なふときの類なり

○孟子曰仕非為貧也而有時乎為貧娶妻非為養也而有時乎為養（普代の宜しきありのハ

のなう今日あゝこゝ五畝のうちの苦楽をともにいつゝをとりのハ大小已が志ざしを行ふふあなう

為ふもいふとあり今日妻をむこ娶く親を養かうん父の世をつぎ先祖を祭る孝道なるとき時によりてハ朝夕の講度いくしがくその養ひの為よもふと

為貧者辞尊居卑辞富居貧辞

尊居卑辭富居貧惡乎宜乎抱關擊柝（分負ことが為めとする者ハ一と道を行なふあつて尊きを辞して卑きに就ハ貪欲とつふりのなう位ハ卑く祿ハ貧なるに居べきなう抱ハ時と擊ハ柝ハ夜ごそ宜きにのうふ抱擊柝ハ本く孔子嘗爲委吏矣曰會計當而已矣嘗爲乘田矣曰牛羊茁壯長而已矣（聖人の如くおさはうまでの事ハ委吏を勤るの時に理よく當るのごとくおさはうまでの畜類壯長よく茁ひそふしてその任ごとくなう又乘田として牛羊を牧うが職にあつて位卑而言高罪也立乎人之本朝而道不行恥也（今日位ひくく祿りの少き物語などに高き場所の事を批判ときゝハ罪なう依て位なきの人ハ大道を身子引うくる事

道行ふ公卿不恥有ちてるさなう（今日君ふの仕て嚴と政道なあつふる者ハ萬章の本の朝廷よそ道の行ざるハ身の恥なうそ

萬章曰士之諸侯ふ託也不何（孟子の曰く敢てや不なう諸侯國を失なうて而ふて後ふ諸侯ふ託も礼なう士之の諸侯ふ託をいふ非ま

萬章曰君之ふ粟ふ餽ら則ハら之を受乎曰之を受之を受ハ何の義ぞ曰君之恨ふ於ら固

○萬章曰士之不託諸侯何也孟子曰不敢也諸侯失國而後託於諸侯禮也士之託於諸侯非禮也（託ともハむらて仕官をなうなくして食祿をうるなう仕官ハ諸侯の養なひうみて苦しうなう御咎さやの事敢てあらぐうしをふ細ハ諸侯國ふ身と託寄てめうもあく名付て寄侯ごとくなうて今士うて身と託ふハ礼にあらず）

萬章曰君餽之粟則受之乎曰受之受之何義也曰君之於氓也固周之（又問ふ君ふ

のまて元より常ニ定まりて數のなきゆへ
受るもなく受ざるもこれ又一きりの心也
則ち受之を周ふセハ一きりの心也
則ち受之を賜ハ一きりの心也
則ち受不ハ一きりの意ろ

則受賜之則不受何也　又孟章の問ひなり　曰周之

何ぞ曰く敢てセ　**也曰敢問其不敢何也**　曰不敢

不曰く敢て問其敢てセ不るとハ何　**皆有常職以食於上無常職而賜於上**

ぞ曰く抱關擊柝者皆常職有て以て上ニ食を　**者以爲不恭也**　御答への心ハ君ニ一ツ〻ニ細ニ施して

常職無して上ニ賜者ハ以て不恭と爲　受ざるべきの理ろ勤る職なきゆへ抱關擊柝の

曰く君之を餽れハ則ハち之を受　**曰魏公之於子思也亟問亟餽鼎肉子**

識不常ニ繼可けんや曰く繆公之子思ニ於るや　受べきの理ろ職ろきりの心ハ貪欲ろふのそ

思不悅於卒也摽使者出諸大門之外

公之子思ニ於るや亟ハ問亟ハ鼎肉を餽るを子思悅ニひ不卒ニ於て使者を摽ひて諸大門の外ニ出て北面稽首再拜して受不曰く今而後知君之犬馬畜伋蓋自是臺無餽也悅賢不能舉又不能養也可謂悅賢乎

北面稽首再拜而不受曰今而後知君之犬馬畜伋蓋自是臺無餽也悅賢不能舉又不能養也可謂悅賢乎　又答ふる問ひなり

君ニ餽ニさるゝ物ハ受てよろしきなろふ常ニ君ろ常ニお繼で餽たまろゝハ礼法のあるべきなろふ繆公の子思ニ度〻問の御意をのべて餽ろふしハ公吏一度〻拜して返ニ依て子思卒ニのぞんで首を稽首再拜して北面して摽ハ君命を傳て餽ろふしハ賢人を養ろよ礼ニ拜セ子細ハ君ニ事ハこまる賢人と苦労ろふしもろこゝろの内なろ餽ろふしハ公吏一度〻拜して返ニ依て子思卒ニのぞんで首を稽首再拜して北面して摽ハ君命を傳て餽ろふしハ賢人を養ろよ礼ニ拜セ子細ハ君ニ事ハこまる賢人と苦労ろふしもろこゝろの内なろ餽ろふしハ公吏一度〻拜して返ニ依て子思卒ニのぞんで首を稽首再拜して北面して摽ハ君命を傳て餽ろふしハ賢人を養ろよ礼ニ拜セ子細ハ君ニ事ハこまる賢人と苦労ろふしもろこゝろの内なろ

使者大門の外へ出しをうしろ目ニ見て餽ろふしのを返納して曰ふ今日君の御あつかひ犬馬のごとくお軽ニうとそなろふ繆公さてうひて愧入ろる役人餽ろとなろふ賢人を悅ろひ

けん乎
曰く敢て問國
君君子を養ハ
ん欲を如何ぞ勘
養なるを謂可
曰く君命を以て
之を將る再拜
稽首して受其
後廩人粟と継
庖人肉を継君
命を以て之を
將らず思以為
鼎肉己を使僕
僕再拝して亟
ハ拝せ使君子と
養ふの之道に
非ず

うまでして引挙ふハおも
益なきことなるべきやや
曰敢問國君欲養君
子如何斯可謂養矣曰以君命將之再
拜稽首而受其後廩人繼粟庖人繼肉
不以君命將之子思以為鼎肉使己僕
僕爾亟拜也非養君子之道也國君の賢
人を養ひ
君の道ハいかん御膳そのつぎめ君より命を傳て將
さるる時再拝して送を受そのちハ
廩や人より継て送ると已て上ふも
てりそや君の命ハ傳ざることなり繆公のごく亟く
拜礼をなさゞるハまことに事おげべて賢人君子をさ
おげべて賢人君子をさ
於舜也使其子九男事之二女女焉百

官牛羊倉廩備以養舜於畎畝之中
後舉而加諸上位故曰王公之尊賢者
也堯帝むすめ舜の徳をそやまひしことを已て上ふも
のごとくそのうちより挙
是王公も賢人を尊崇まひして上位を加ふる
例なり
○萬章曰敢問不見諸侯何義也孟子
曰在國曰市井之臣在野曰州莽之臣
皆謂庶人不傳質為臣不敢見於
諸侯禮也庶人の同なり君子の諸侯にまみえざるハ
道理て御呑官をかもちて祿を
受ざる者ハ是世にいふ家中にれバ元よりまぬ論られ
市井の住居をろのことを市井の臣と名づく世にいふ城下に

堯之薨ずるに其
子九男を使之
事二女焉を以為
百官牛羊倉廩
備へ以て舜を
畎畝之中を養る
ハ使後の挙て諸と
上位を加ふる故を曰
く王公之賢を尊
とぶ者なり
萬章曰敢て
問諸侯を見不
ハ何の義ぞ孟
子の曰く國に在
てハ市井之臣と
曰野に在を州
莽之臣と曰皆庶

人と謂庶人質を傳て臣為不ㇾ敢て諸侯に見へ不ㇾ礼なり

萬章曰庶人之を召で役をせハ則ち往て役も君之を見ん欲し之を召セバ則ち往て之を見不ハ何ぞ曰く往て役もる義ハ義ちう往て見ゆハ不義ちう且君之之を見と欲もう何の為ぞ哉曰く其多聞の為なり曰く其多聞の為なら曰ハ其賢の為なり曰く其賢の為なら曰ハ御者日用の役事ハ上ようり一揆にめ一つひまよ役ぞそ土地不ㇾ住居もる庶人の役ふる旨ハ元より義ちうなふろりなその人の徳あるふ尚ぶんし召ふあふさたふ一往て見ふ貧ぼるふあふて不義なり介節なきゆふりまう君のもふひふ所以を察ーてもろく古實を聞ーゆへふさふへしーあひハ博識多れなるんり一多聞なるゆへふ徳あるゆへふらハむふーて大子と之師ふ者をハ召ふ旨ハ元より義ちうなふろりなその例ふそぶあふぞもふ諸侯召ハとて介節ふきふふを往て見ゆふられ不義なり

繆公亟見於子思曰古千乘之國以友士何如子思不悦曰古之人有言曰事之云乎豈曰友之云乎子思之不悦也豈不曰以位則子君也我

もむ浪人のたぐひなう田野に在るを帥莽の臣といふなう帥莽もむのふろふまでらづも庶人をいふるりまふその臣と礼ありて献上の贄を傳るふう贄を取て臣と為ぎるりのハ諸侯ふおふ礼なう

萬章曰庶人召之役則往役君欲見之召之則不往見之何也又何なう庶人ハ上ようり召て日用の役ふつひとめ君ようり別ぶんて

曰往役義也往見不義也且君之欲見之也何為也哉曰為其多聞也為其賢也曰為其多聞也則天子不召師而況諸侯乎為其賢也則吾未聞欲見賢而召之也

友ととと云ふ曰ん乎子思之悦こび不豈位を以てまれバ則ハち子ハ君なり我ハ臣也何ぞ敢て君與友さう德を以そまバ則ハう子ハ我こ事る者也奚ぞ以て我與友う可と曰不や千乘之君之與友さらしんことを求まども得可こゝ不而を況や召可けん與齊の景公田を

臣也何敢與君友也以德則子事我者也奚可以與我友千乘之君求與之友而不可得也而況可召與（繆公亟く子思へたてまつらひ

〳〵ハ千乘の國主も〳〵ハ處士を友とうらやまつ〳〵ハ已一古への人の言葉ゝ賢者ゝ事とらゝべくやと子思の怡悦かハざる氣色あり先位を以て論まれバ繆公ハ君なり吾ハ臣なり主君と友るの道理也吾ハ師なり君ゝ德を以て論まれバ繆公ハ門弟子なり吾と友るの道理とらゝべども吾ゝ奚ぞ敢ハざるなり況て召つけ

至將殺之志士不忘在溝壑勇士不忘喪

虞人を招く旌を以てせ至ら不將よ之を殺さんむ〳〵齊の景公の田獵ゝ虞の地の人を下知もつて招べきと將志士ハ溝壑ゟ在を忘ざ不勇聖人もふつくゝの理を作法を用ひずべ〳〵虞の人〳〵死とらゝべき性となり

七ハ其ハ元を密るりんことを忘ず不孔子奚ぞ取其招よ非ざれバ往不を取

曰く敢て問虞人を招よ何を以てもる曰く皮冠を以てもて庶人を旌を以ても旃を以てもす

孔子奚取焉取非其招不往也

以曰以皮冠庶人以旌士以旂大夫以

旌此段孟子の說なり御答この時

田獵ゟ用ゆる皮の冠用ひ諸士ゟハ画ける旃を用ひ大夫ゟハ熊旗を

ある旌を用ひなり

以大夫之招招虞人虞人死不

敢往以士之招招庶人庶人豈敢往哉

況乎以不賢人之招招賢人乎

（繆公亟く子思へたてまつらひ）

（旌大夫の旌と用ひ）

大夫之招を以て虞人を招く虞人死も敢て往不ㇾ之招を以て庶人を招ふ庶人当に敢て往んや哉況人乎不賢人之招を以て賢人を招くや

欲ㇾ見ㇾ賢人而不ㇾ以ㇾ其道猶欲ㇾ其入而閉ㇾ之門也夫義路也禮門也惟君子能由ㇾ是路出ㇾ入是門也詩云周道如ㇾ底其直如ㇾ矢君子所ㇾ履小人所ㇾ視

賢人を見んと欲して而ㇾ其道を以てせざれば其入ることを欲せざるが猶門を閉ざるがごとし夫義は路なり禮は門なり惟君子能ㇾ是路由て是門より出入するがごとし詩に云く周道底の如し其直き矢の如し君子の履所ろ小人の視所ろ

萬章曰孔子君命召不ㇾ俟駕而行然則孔子非ㇾ與曰孔子當仕有官職而以其官召之也

萬章曰く孔子君命召ば駕を俟不して行然らば則ち孔子非ㇾ與曰く孔子仕へしは當て官職有其官を以て之を召ばなり

孟子萬章に謂て曰く一鄉之善士は斯一鄉之善士を友とし一國之善士は斯一國之善士を友とし天下之善士は斯天下之善士を友とす

善士を友とし一國之善士斯一國之善士を友とし天下之善士斯天下之善士を友とす

天下之善士を友とするも足れりとせず又古の一人を尚論して其詩を頌し其書を讀み其人を知らざるべけんや是を以て其世を論ず是尚友なり

齊の宣王卿を問ふ孟子曰く王何の卿を問ふ曰く貴戚之卿を問ふ曰く請ふ貴戚之卿を問ふ君有大過則諫反覆之而不聽則易位

異姓之卿王曰く勃然變色す曰く王勿異也王問臣臣不敢不以正對す宜王顧ひて孟子の言の如くにして君臣の顏色勃然として變ずるよ孟子曰く王の御たづねなさるゝ所ハ臣ハ正しく對へざるべからず

人の善道を志ざんことを欲し大小ある誠一なる德器量分限ある一鄉一國中にて善名ある士ハ一鄉にて善名ある士ハ一鄉にてたのもしとなり一國中にて名あるものハ又ハ天下にたのもしとなるその人と交接となりその器量のよろしからざる人ハ呼ぶべからざるの人なり一鄉の人を友とし一國の人を友とし天下の人を友とするハ猶足らざるの者にて古の賢人を論じ詩を作書を讀その德を尚ぶその世の得失を論ずるハ古人と友とするなり

爲未足之尚論古之人頌其詩讀其書不知其人可乎是以論其世也是尚友

○齊宣王問卿孟子曰王何卿之問也王曰卿不同乎曰不同有貴戚之卿有異姓之卿王曰請問貴戚之卿曰君有大過則諫反覆之而不聽則易位

卿とハ國家の大老職なるべきものなるゆゑ卿ぞ貴戚異姓の二ツあり貴戚とハ或ハ君と同じ姓なる卿ぞ貴戚異姓の二ツあり貴戚とハ或ハ君と同じ姓まゝハ同じ骨肉にて戚ある緣あるなり異姓とハ國の安危存亡ともあまバ諫をもまた二ツ三ツ諫をもいれて聽入なきゆゑ君に過失あるに依て君に過失あるに依てつゝしみ聽入なきそれ又ハ嫡子となりつゞきのこと易てその君の兄弟又ハ嫡子となりつゞきのこと

乎色曰王勿異也王問臣臣不敢不以正對す宜王顧ひて孟子の言の如くにして君臣の顏色勃然として變ずるよ孟子曰く王の御たづねなさるゝ所ハ臣ハ正しく對へざるべからず

あゝ不王の色定まる

然して後ち異姓之卿を請問曰く君過ち有ば則ち諫む之而して反覆聽不ば則ち去

なう〳〵依て餘を直なること右のごし〳〵

異姓之卿　後ち王の顏色安定て　曰君有過則諫反覆之而不聽則去

異姓とハ位ハ同き卿なるをいふ

姓ハ異なりその任の重事同きを過ありハ諫を奉ふ〳〵ゝ諫て聽ざれバ官祿を君ゟ致て其國を立去ぐさりの〇孟四卷之

ゝくる如く伊尹の大甲帝をつゝしめ一挙動あれど事を遂ざる時ハこのことを不忠の名をこうむり口惜きをいふ

又ハ事異なれども天朝ゟく宇屋公忠戰ゟ身をたゝえ〳〵なをどる逆來までハものを分幾〳〵人ぐる僧尼の

ぐく悪逆なりやうの惑ひあり〳〵

えよう忠孝ハふらく思惟をべし〳〵

孟子卷之三終